

学校法人親和学園 2024 年度事業報告書

1. 法人の概要

(1) 基本情報

- ①法人の名称：学校法人親和学園
- ②主たる事務所の住所：神戸市灘区土山町6番1号
電話番号：078-854-3820
FAX 番号：078-854-3822
ホームページ：<https://www.shinwa-gakuen.jp>

(2) 建学の理念等

建学の理念
広い世界観と社会的行動力を持つ新しい女性の育成

校訓
・誠実を旨とし、言行に表裏なからむことを期すべし
・堅忍不拔の精神を持し、以て婦人の天職を尽すべし
・温和従順の徳を本とし、忠恕の道を完うすべし

校章の由来
校訓の「誠実」を表すものとして中心に 鏡 を象し
「堅忍不拔」を表すものとして縁辺に 菊 を
「温和」を象徴する 葵 を縁辺 に置いた

(3) 学校法人の沿革

1887年～1899年		
年	月 日	学校法人・学校・学部・学科等の変遷
1887(明治20)年	10月5日	佐々木祐誓を中心に神戸市内元町善照寺内に私立親和女学校創立
1892(明治25)年	11月2日	友國晴子独力にて校名だけを継承して、神戸市下山手通6丁目に民家一戸を借り、自ら校長兼教員として学校経営に尽力
1895(明治28)年	12月	神戸市下山手通7丁目に校舎竣工
1899(明治32)年	8月	親和女学校認可

1900年～1959年		
1908(明治41)年	2月26日	私立親和高等女学校設立認可
	9月12日	学則・校章制定、校訓改定
1910(明治43)年	7月6日	財団法人親和高等女学校を設立
1917(大正6)年	5月	親和高等女学校 校歌を制定
1925(大正14)年	10月26日	校祖友國晴子逝去(68歳)
1937(昭和12)年	10月25日	親和学園創立50周年記念式典挙行

1947(昭和 22)年	4月1日	学制改革により、新制親和中学校を併置
1948(昭和 23)年	7月21日	親和女子高等学校設置認可
1951(昭和 26)年	2月23日	私立学校法による組織変更が認可され、学校法人親和学園と改称

1960年～1999年		
1966(昭和 41)年	4月1日	親和女子大学 (文学部＝国文学科、英文学科)開学
1972(昭和 47)年	4月1日	大学 文学部「児童教育学科」開設
1977(昭和 52)年	4月10日	大学附属図書館竣工
1987(昭和 62)年	10月25日	親和学園創立 100 周年記念式典挙行
	11月22日	大学学生会館竣工
1989(平成元)年	3月29日	親和女子高等学校、親和中学校、法人本部が六甲(神戸市灘区)へ移転(神戸市中央区下山手通から)
1994(平成 6)年	4月1日	大学名を神戸親和女子大学に改称、「教育専攻科」設置
1995(平成 7)年	1月17日	阪神・淡路大震災発生 中学棟被災し使用不能となる
1997(平成 9)年	4月5日	中学棟、新運動場竣工

2000年～		
2000(平成 12)年	11月27日	大学 厚生省「保育士を養成する学校その他の施設」の指定(児童教育学科)
2002(平成 14)年	4月1日	大学院文学研究科(修士課程「心理臨床学専攻」「教育学専攻」)開設
2003(平成 15)年	4月1日	大学 文学部「総合文化学科」「心理臨床学科」「福祉臨床学科」開設
2004(平成 16)年	4月1日	大学 教育研究センター開設
2005(平成 17)年	4月1日	大学 発達教育学部(「児童教育学科」「心理臨床学科」「福祉臨床学科」)開設
2006(平成 18)年	4月1日	大学 通信教育部(発達教育学部「児童教育学科」「福祉臨床学科」)開設
2007(平成 19)年	7月1日	大学 三宮サテライトキャンパス「センタープラザ教室」開設
	10月20日	親和学園創立 120 周年記念式典挙行
2008(平成 20)年	3月12日	大学 神戸市北区と地域連携協定を締結
	4月1日	大学 発達教育学部(「ジュニアスポーツ教育学科」)開設
	4月1日	大学 「子育て支援センター」新設
2009(平成 21)年	7月24日	法人 常任理事会を設置
	9月20日	大学 6号館(スポーツ教育健康センター)竣工
2011(平成 23)年	9月20日	大学 新2号館竣工
2012(平成 24)年	11月9日	親和学園創立 125 周年記念講演会開催
2014(平成 26)年	4月1日	中学 「Sコース」「総合進学コース」2コース制実施
2016(平成 28)年	3月18日	大学 ラーニングcommons竣工
	4月1日	大学 附属親和幼稚園開設
	4月1日	法人 親和教育研究所開設
	10月8日	神戸親和女子大学創立 50 周年記念式典挙行
2017(平成 29)年	9月19日	親和学園創立 130 周年記念式典挙行
2018(平成 30)年	8月31日	大学 国際交流寮竣工
2019(平成 31)年	4月1日	高中 ラーニングcommonsルーム開設

2020(令和2)年	4月1日	高校「国際コース」開設
	4月1日	認定こども園 神戸親和女子大学附属親和幼稚園開設
	9月30日	大学 親和アリーナ竣工
2021(令和3)年	4月1日	大学 文学部「総合文化学科」を「国際文化学科」に学科名称変更
	4月1日	大学 文学部「心理学科」開設
	4月1日	高校 「イングリッシュルーム」開設
		大学基準協会による2021(令和3)年度の大学評価の結果、大学基準に適合していると認定される。(1999年4月1日加盟・登録、認証評価受審結果:大学基準適合認定2008年4月1日～2015年3月31日、2015年4月1日～2022年3月31日、2022年4月1日～2029年3月31日)
2022(令和4)年	4月1日	大学 発達教育学部を教育学部に学部名称変更
	4月1日	大学 ジュニアスポーツ教育学科をスポーツ教育学科に学科名称変更
	4月1日	高校 「特進Bコース」開設
	11月19日	親和学園創立135周年記念式典挙行
2023(令和5)年	4月1日	大学 男女共学に移行し大学名を神戸親和大学に改称、新シンボル・ロゴ、タグライン制定
2024(令和6)年	4月1日	大学 教育学部「児童教育学科」を「教育学科」に学科名称変更
	4月1日	高校 高校「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」文部科学省指定
		高中 中学「スーパーサイエンスコース」「スティーム探究コース」「グローバル探究コース」開設

(4) 設置する学校・学部・学科等

(2024年5月1日現在)

校区分	学部	学科・専攻	設置認可年月日	設置年月日
神戸親和大学 (令和5年4月1日 名称変更)	大学院 文学研究科	心理臨床学専攻	平成13年12月20日	平成14年4月1日
		教育学専攻		
	文学部	国際文化学科	令和2年6月18日 届出受理	令和3年4月1日
		心理学科		
	教育学部 (令和6年4月1日 名称変更) (発達教育学部)	(児童教育学科)	(平成16年11月17日 届出受理)	(平成17年4月1日)
		教育学科	令和5年4月4日 届出受理	令和6年4月1日
		(ジュニアスポーツ 教育学科)	(平成19年6月25日 届出)	(平成20年4月1日)
		スポーツ教育学科	令和3年4月9日 届出	令和4年4月1日
		(通信教育部 児童教育学科)	(平成18年1月31日)	(平成18年4月1日)
		通信教育部 教育学科	令和5年4月4日 届出受理	令和6年4月1日
通信教育部 福祉臨床学科		平成18年1月31日	平成18年4月1日	

学校区分	課程名	学科	設置者変更認可年月日	設置年月日
認定子ども園 神戸親和大学 附属親和幼稚園 (令和5年4月1日 名称変更)	—	—	平成28年4月1日 (神戸親和女子大学 附属親和幼稚園)	令和2年4月1日 (認定子ども園 神戸親和女子大学 附属親和幼稚園)

学校区分	課程名	学科	設置認可年月日	創設年月日
------	-----	----	---------	-------

親和女子高等学校	全日制課程	普通科	(新制) 昭和23年7月21日	(私立親和女学校) 明治20年10月5日
----------	-------	-----	--------------------	-------------------------

学校区分	課程名	学科	設置認可年月日	創設年月日
親和中学校	—	—	昭和22年4月1日	昭和22年4月1日

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況

① 入学定員、入学者数、収容定員、在籍学生・生徒数

◇ 神戸親和大学

(2024年5月1日現在)

学部等	入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
大学院文学研究科	35	28	70	53
文学部	120	111	480	398
発達教育学部	—	—	295	211
教育学部	265	358	795	850
計	420	497	1,640	1,512
教育学部 ^{※1} (通信教育部)	入学	200	9	22
	編入学 (3年次)	400	18	18
発達教育学部 (通信教育部)	入学	—	200	33
	編入学	—	400	77

※1 2022年度「発達教育学部」から学部名称変更

◇ 認定こども園 神戸親和大学附属親和幼稚園

課程・学科	募集定員	入園者数	園児定員	在籍園児数
—	—	37	210	146

◇ 親和女子高等学校・親和中学校

課程・学科	募集定員	入学者数	生徒定員	在籍生徒数
高等学校 全日制課程 普通科	270 内、外部募集80	170	960	538
中学校	190	107	960	376
計	—	277	1,920	914

② 2025年度入学者数・入園者数

◇ 神戸親和大学

学部等	入学定員 (編入学)	入学者数 (編入学)	摘要
大学院文学研究科	35	21	
文学部	108	105	
教育学部	267(20)	377(5)	
計	410(20)	503(5)	

学部等	定員	入学者数	摘要
教育学部 (通信教育部)	入学	200	※4月入学1期入学許可者数。4月入学生の募集(最終3期)は4月30日まで行っているため、確定は5月下旬になる。
	編入学	400	

◇ 認定こども園 神戸親和大学附属親和幼稚園

課程・学科	総定員	入園者数	摘 要
—	210	28	2020年4月 認定こども園へ移行

◇ 親和女子高等学校

課程・学科	募集定員	入学者数	摘 要
全日制課程 普通科	270	142	内、外部入学生 24名

◇ 親和中学校

課程・学科	募集定員	入学者数	摘 要
—	190	157	

(6) 収容定員充足率

◇ 神戸親和大学

(毎年度5月1日現在)

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
大学院文学研究科	85.7%	80.0%	74.3%	64.3%	75.7%
文学・発達教育学部	101.3%	89.5%	79.5%	86.6%	92.9%

◇ 認定こども園 神戸親和大学附属親和幼稚園 (満3歳児が5月以降も入園してきます。)

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
幼稚園	94.8%	88.5%	83.8%	69.5%	85.7%

◇ 親和女子高等学校・親和中学校

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
高等学校	56.3%	56.4%	55.7%	57.7%	56.0%
中学校	54.5%	56.1%	51.6%	47.0%	39.2%

(7) 役員の概要

(2025年3月31日現在)

氏名欄の※は非常勤理事

理 事	定員	現員	氏 名	重任年月日①	就任年月日②
理 事 長	1名	1名	山根耕平	2023.5.27	1999.5.27
副理事長・学園長	1名	1名	青木 徹	2024.5.17	
常 務 理 事	1名	1名	和田靖之	2024.4.12	
神戸親和大学長	1名	1名	松田恵示	2024.4.1	
親和女子高等学校長	1名	1名	中村晶平	2024.4.1	2021.4.1

理 事	定員	現員	氏 名	就任年月日①	就任年月日②
評議員会選任理事	7名	7名	田中 聡	2024.4.1	
			森上展宏	2024.4.1	2021.4.1
			米津佳子※	2023.5.27	2008.5.27
			荘林淳子※	2023.5.27	2019.5.31
			高田智司	2023.4.1	
			小林雅樹	2023.4.1	2018.8.23
			高橋義浩	2024.4.1	
理事会選任学識経験者理事	4名	4名	三木四郎※	2023.5.27	2022.5.27
			渡辺真二※	2023.5.27	2021.6.25
			金井宏彰※	2023.5.27	2022.7.1
			北垣日出子※	2023.6.16	
総 数	16名	16名			

監 事	定員	現員	氏 名	就任年月日①	就任年月日②
監 事	2名	2名	白井義人※	2023.5.27	2011.5.27
			谷口 茂※	2023.5.27	2022.8.5

・役員賠償責任保険契約の状況

私立学校法に従い、2025年3月14日理事会決議により私大協役員賠償責任保険に加入した。

契約期間 2025年4月1日から2026年3月31日まで

保険会社 東京海上日動火災保険株式会社（引受保険会社）

団体契約者 日本私立大学協会

補償上限額 10億円

年間保険料 275,000円

被保険者 ①記名法人 学校法人親和学園

②個人被保険者 理事・監事

補償内容 ①記名法人 法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等

②個人被保険者 法律上の損害賠償金、争訟費用等

保険適用地域 日本国内・国外両方

支払い対象とならない主な場合 法律違反に起因する対象事由等

(8) 評議員の概要

(2025年3月31日現在)

評 議 員	定員	現員	氏 名	就任年月日①	就任年月日②
神戸親和大学長	9名	8名	松田恵示	2024.4.1	
親和女子高等学校長			中村晶平	2024.4.1	2021.4.1
神戸親和大学副学長			田中 聡	2024.4.1	
親和女子高等学校副校長			森上展宏	2024.4.1	2021.4.1
親和中学校教頭			平通裕美	2024.4.1	
法人事務局長			高橋義浩	2024.4.1	
神戸親和大学事務局長			高田智司	2023.4.1	
親和女子高等学校・親和中学校事務局長			小林雅樹	2023.4.1	2018.8.23
理事会推薦教職員で 評議員会選任評議員	13名	13名	高橋一夫	2024.5.25	
			古川知子	2024.5.25	
			間渕泰尚	2023.5.27	2020.5.26
			森田 篤	2023.5.27	2020.5.26
			横谷 賢	2023.5.27	
			安井茂美	2024.5.25	
			青木直子	2023.5.27	2020.5.26
			麻田健洋	2023.5.27	2021.8.6
			麻田美奈子	2024.5.25	
			桑田光一	2023.5.27	2017.5.26
			松井 淳	2023.5.27	2014.5.27
設置学校卒業生で 理事会選任評議員	10名	10名	三宅和博	2023.5.27	
			中根綾子	2024.5.25	
			米津佳子	2023.5.27	2005.5.27
			阿部由佳	2023.5.27	2013.5.28
			有本三春	2023.5.27	2011.5.27
			日下裕子	2023.5.27	2008.5.27
			山添恵子	2023.5.27	2009.5.29
			荘林淳子	2023.5.27	2013.5.28
			有井小裕美	2023.5.27	2022.6.17
			老田 薫	2023.5.27	2022.6.17
高垣陽子	2023.5.27	2019.5.31			
福地典子	2023.5.27	2016.5.27			

理事会選任学識経験者評議員	12名	12名	山根耕平	2023.5.27	1999.5.27
			青木 徹	2024.4.1	
			和田靖之	2024.4.12	2024.1.1
			三木四郎	2023.5.27	2017.5.26
			渡辺真二	2023.5.27	2021.6.25
			金井宏彰	2023.5.27	2022.7.1
			北垣日出子	2023.6.16	
			西野正矩	2023.5.27	2016.5.27
			今村里香	2023.5.27	2022.10.1
			高橋秀典	2023.5.27	2022.10.1
			田中元子	2023.10.1	
			藪内昭吾	2024.4.12	2024.1.1
総 数	44名	43名			

1. 上記の区分は現任期(2025年3月31現在)による
2. 就任年月日①は、現任期の就任年月日
3. 就任年月日②は、重任の場合の最初の就任年月日

(9) 教職員の概要

①人数

(2024年5月1日現在)

区分	神戸親和大学	大学附属 親和幼稚園	親和女子 高等学校	親和 中学校	法人 事務局	合計	
教 員	本 務	71(41)	22(0)	37(11)	26(6)	-	156(58)
	兼 務	180(180)	0(0)	20(14)	9(8)	-	209(202)
	計	251(221)	22(0)	57(25)	35(14)	-	365(260)
職 員	本 務	53(14)	0	9(2)	8(5)	4(3)	74(24)
	兼 務	19(19)	0	6(6)	2(2)	0	27(27)
	計	72(33)	0	15(8)	10(7)	4(3)	101(51)

() 内は任期付教職員で内数

②平均年齢

(2024年5月1日現在)

区分	神戸親和大学	大学附属 親和幼稚園	親和女子 高等学校	親和 中学校	法人 事務局
教 員	本 務	58.4(62.2)	32.1(0)	51.9(56.9)	50.6(32.3)
	兼 務	56.6	0(0)	60.0(54.8)	52.0(57.3)
職 員	本 務	45.5(39.1)	--	53.7(51.0)	50.3(41.8)
	兼 務	55.4(55.4)	--	47.3(47.3)	26.5(26.5)

() 内は任期付教職員で内数

(10) その他

①理事会・評議員会

1) 開催日

常任理事会	理事会	評議員会
2024年5月10日(金)	2024年4月12日(金)	2024年5月24日(金)
2024年9月13日(金)	2024年5月17日(金)	2024年7月26日(金)
2024年11月8日(金)	2024年5月24日(金)	2024年11月29日(金)
2025年2月7日(金)	2024年6月21日(金)	2025年3月21日(金)
2025年3月7日(金)	2024年7月19日(金)	
	2024年7月26日(金)	
	2024年9月27日(金)	
	2024年11月22日(金)	
	2024年11月29日(金)	
	2024年12月20日(金)	
	2025年2月21日(金)	
	2025年3月14日(金)	
	2025年3月21日(金)	

2. 事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要

神戸親和大学

3つの方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大学の教育理念を踏まえ、どのような力を身に付ければ学位を授与するのかを定める基本的な方針。

教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施するのかを定める基本的な方針。

入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

各学部学科の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、入学者を受け入れるための基本的な方針。

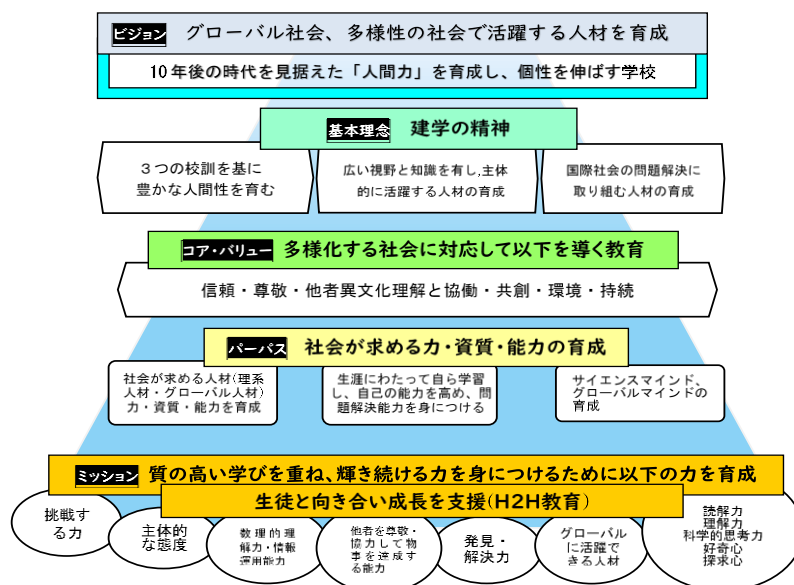
本学の3つの方針については、ホームページで公開している。

<https://www.kobe-shinwa.ac.jp/about/policy/>

親和女子高等学校・親和中学校

急激な少子化の進行と受験生の共学化志向の高まりの中で、本学も男子に門戸を開く必要があると判断された。2025年度から全国的にも類を見ない女子部・共学部併置の教育体制をとることが決まり、この改革のために半年余りという短期間で教職員全体が計画的に準備を進めた。

2024年度からの教育改革（新コース設置等）は、新体制の生徒を受け入れるにあたり、建学の精神（教育理念）を基に、パーパス、コア・バリューを達成するための様々な力の育成を、ミッションとして取り組んだ。生徒の活動を活性化させることはもとより、教員全体で本校の核となる「探究活動」の裾野を広げるとともに、Sコースの「理数探究」授業を充実させて「SSH事業」の活用を「研究推進部」を中心に生徒を支援した。



また、2024 年度から立ち上がる 3 つの新コース設立に向けて、教員が各種委員会で議論、協議して創り上げたミッション&ポリシーを以下に記す。

中学新コースのミッション&ポリシー制定

<スーパーサイエンス>

1) コースミッション

本校の人間性尊重教育・理系教育の伝統を基に、サイエンスマインドとグローバルマインドを育み、高度で先導的な理数探究教育を実施することで、卓越した科学系リーダーとしての市民的資質・能力を育成すると共に、難関大学の科学系諸分野への進路を保障する。

2) コースポリシー

① グラデュエーション・ポリシー

卓越した科学系リーダーとしての市民的資質・能力を育成すると共に、難関国公立大学の理工系・生命科学系・医療系・生活科学系など科学系諸分野への進路を実現する。

② カリキュラム・ポリシー

- ・ 中学では、サイエンスマインドとグローバルマインドを育むために、キャリア形成教育に注力し、科学系教科・科目とプログラム、語学、探究学習を重視した教育課程を編成する。
- ・ 高校では、サイエンスマインドとグローバルマインドの深化を図るために、理数探究をはじめとする文理融合的で先導的な科学系教育、語学、探究学習を重視すると共に、難関大学への進路を保障する教育課程を編成する。
- ・ 学校行事や課外活動、海外研修を通して、対話力を身につけ、主体性と協働意識、他者尊重と社会貢献の精神など、人間性を涵養する教育を推進する。

③ アドミッション・ポリシー

基本的学力を有すると共に、科学的分野への関心・意欲が高く、主体的に学習や学校生活に臨む意欲のある生徒を募集する。

<STEAM探究>

1) コースミッション

本校の人間性尊重教育・理系教育の伝統を基に、サイエンスマインドとグローバルマインドを育み、STEAM探究教育を実施することで、科学系リーダーとしての市民的資質・能力を育成すると共に、国公立大学をはじめとする科学系諸分野への進路を保障する。

2) コースポリシー

① グラデュエーション・ポリシー

科学系リーダーとしての市民的資質・能力を育成すると共に、国公立大学をはじめ、理工系・生命科学系・医療系・生活科学系など幅広い科学系諸分野への進路を実現する。

② カリキュラム・ポリシー

- ・ 中学では、サイエンスマインドとグローバルマインドを育むために、キャリア形成教育に注力

- し、STEAM探究の基礎、語学、探究学習を重視し、教科バランスの取れた教育課程を編成する。
- ・高校では、サイエンスマインドとグローバルマインドの深化を図るために、科学系教科・科目、STEAM探究、語学、探究学習を重視し、国公立大学をはじめとする科学系諸分野への進路を保障する教育課程を編成する。
 - ・学校行事や課外活動、海外研修を通して、対話力を身につけ、主体性と協働意識、他者尊重と社会貢献の精神など、人間性を涵養する教育を推進する。
- ③アドミッション・ポリシー
- 基本的学力を有すると共に、科学的分野への関心・興味があり、主体的に学習や学校生活に臨む意欲のある生徒を募集する。

<グローバル探究>

1) コースミッション

本校の人間性尊重教育・グローバル（語学、国際）教育の伝統を基に、グローバルマインドとサイエンスマインドを育み、グローバル探究教育を実施することで、グローバル系リーダーとしての市民的資質・能力を育むと共に、国公立、難関私立大学など、人文・社会科学分野への進路を保障する。

2) コースポリシー

①グラデュエーション・ポリシー

グローバル系リーダーとしての市民的資質・能力を育成すると共に、国公立大学、難関私立大学をはじめ、国際・文・法・経済・社会系など人文・社会科学系各分野への進路を実現する。

②カリキュラム・ポリシー

- ・中学では、グローバルマインドとサイエンスマインドを育むために、キャリア形成教育に注力し、グローバル探究教育の基礎、国際理解、語学、探究学習を重視し、教科バランスの取れた教育課程を編成する。
- ・高校では、グローバルマインドとサイエンスマインドの深化を図るために、国際理解、語学、探究学習、人文・社会科学系教科・科目に重点を置いた教育を実施し、国公立、難関私立大学など、人文・社会科学系諸分野への進路を保障する教育課程を編成する。また、海外への留学制度を整備すると共に、英語等の資格取得教育を実施する。
- ・学校行事や課外活動、海外研修を通して、対話力を身につけ、主体性と協働意識、他者尊重と社会貢献の精神など、人間性を涵養する教育を推進する。

③アドミッション・ポリシー

基本的学力を有すると共に、グローバル分野への関心・意欲が高く、主体的に学習や学校生活に臨む意欲のある生徒を募集する。

(2) 中期的な計画(教学・人事・施設・財務等)及び事業計画の進捗・達成状況

①第3次10年構想5ヵ年計画の検証

神戸親和大学

以下、第3次10年構想5ヵ年計画の検証を行う。

第3次10年構想5ヵ年計画項目	重点項目	検証評価
1. 理念・目的に関する目標・計画 (1) 理念・目的を検証し、大学の施策に反映させる。 (2) 理念・目的を達成するための事業を計画、実施する。 (3) 理念・目的を周知・公表し、関係者で共有する。	(1) 大学の設置理念を実現する方策を検討し大学の将来構想等に反映する (2) SHINWA VISION の実現に向けて具体的な実行計画を策定する (3) 大学の設置理念、校訓、ビジョン、パーパスについて、学長講話や教職員研修などを通じて、繰り返し説明し、学生、教職員の理解を深める。また、教職員が職階構造により分離、分業が	共学への移行に伴い、「神戸親和大学」としてビジョン、基本理念、コア・バリュー、パーパス（存在意義）、ミッションを新たに定め、周知・公表し、教職員等関係者で共有した（図1.）。学生への校訓等の周知は、基礎演習等の授業を通して周知している。また、パーパス 及びビジョンの実現のために教育改革、カリキュラム改革を計

	進み「蛸壺化」しないように、全教職員に経営マインドを育み、ティールからの意思表示、提案、意思決定を可能とするような組織文化を醸成する	画し、実施した。
--	--	----------

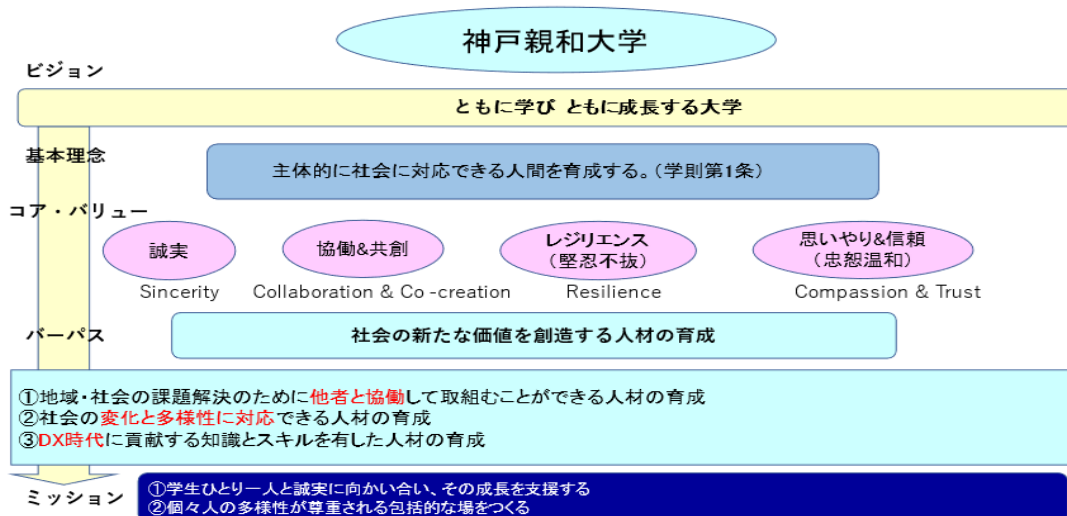


図1. 神戸親和大学のビジョン、パーパス、ミッションなど

第3次10年構想5カ年計画項目	重点計画項目	検証評価
2. 教育課程に関する目標・計画 (1) ディプロマポリシーを検証し、必要に応じ改定する。	○特に、大学のミッション、パーパス、バリューの再定義の中で、具体的に学生の育ちの方向性が明確化するように精査する ○学則、ディプロマポリシーに則り学生の育成ができたかどうかアセスメントポリシーにより検証する	IR推進室と連携のもの、アセスメントポリシーを策定し、ディプロマポリシーを検証した。
(2) カリキュラムポリシーを検証し、必要に応じ改定する。	○ディプロマポリシーとの関連でカリキュラムポリシーを検証し大胆に改革していく ○社会の動向に応じたカリキュラムの見直し、地域や社会と協働する「サービラーニング」の質量両面での充実を図る	教学マネジメント会議で、IR推進室からの統計をもとに、2025年度入学生に向けてのカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの検討を行った。
(3) 時代の変化に対応して教育課程の改革・改善を図る。	○共通教育改革の実行 *英語等運用能力、情報活用能力、論理的文章構成力の向上を目指したカリキュラム。 *高大連携科目の設置「教育」、「探究」の充実。 *留学生への日本語教育カリキュラムの精査、学習効果の検証。 ○各学科におけるカリキュラムの充実とカリキュラムの体系化 *教育学科(2024年度学科名称変更)の教員養成カリキュラム改革。実習等実践教育活動の充実。 *国際文化学科「情報コミュニケーションコース」の活性化。 *開智国際大学との協定に基づく単位互換等の教学における交流事業の実施。	共通教育を改革 ①地域共創科目の導入に際し、抜本的な共通教育科目の見直しを行った。具体的には、今まで20単位分を修得させるカリキュラムであったが、14単位へ修得すべき単位数を減じた。それに伴い、カリキュラム上からも多数の科目削減に着手した。 ②教育学科で新たに、国語(中・高)、英語(高)及び数学(高)の免許課程が認可された。よって、複数の教科の免許を取得できるようになることで、より幅広い知識を持つ教員を育成できる。これにより、学校現場での柔軟な対応が可能となり、特に少子化が進む中で教員の兼任が求められる状況

	<p>○2025 年度の実施を目指したカリキュラム改革について検討するとともに一部実施する</p> <p>*地域の社会課題をテーマとし、地域と協働・共創するサービスラーニング科目を開発する。</p> <p>*「実践教育プログラム」の枠組みを再検討し適切なカリキュラム化を図る。</p> <p>○教員採用試験対策、公務員試験対策等キャリア支援を目的とした科目の充実</p> <p>*教員採用試験、公務員試験等に向けた基礎学力養成科目の設置と教採・幼保セミナーとの連結。教員採用試験の時期変更への対応。</p> <p>○実践教育プログラム「SAIL (Shinwa Action Integrated Learning)」の構築、運用</p> <p>*企業との連携、協働によるプロジェクト・ベースド・ラーニングの充実。</p> <p>*インターンシップ、ボランティア、プロジェクト活動の一部を正課授業として単位化し、実践教育活動を活性化</p> <p>○自己理解、人生設計を含めたキャリア科目の必修化、上位学年キャリア科目の充実</p> <p>○資格認定科目の新設により、キャリア形成に寄与する資格等の取得の推奨</p>	<p>に適応可能となる。</p> <p>③企業との連携プロジェクトの実施。</p> <p>④2023 年度から新たなキャリア教育「ワーク&ライフデザイン I・II」を開始。本クラスの有志によるプレゼンテーション能力向上のためのグループ「親和 PLEC」活動開始。</p> <p>⑤2023 年度からの「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」(リテラシーレベル) 認定制度の認定を受けた。</p> <p>⑥2023 年度から高大連携科目「教育」、「探究」で高等学校との協働授業を開始。</p>
<p>(4) 最新技術を活用して教育方法の改革・改善を図る。</p>	<p>○企業と連携・協働した ICT を活用した教育方法の開発・実践</p> <p>*講義における ICT 活用の推進</p> <p>*授業内外のデジタル化の推進</p> <p>*教育効果の高いオンライン授業の開発</p> <p>*一定数のオンライン授業の配置で学外でのインターンシップ等の実践活動時間の確保</p>	<p>①PC 必携化に伴い、講義内での ICT 活用と授業内外のペーパーレス化、オンライン化を促進した。</p> <p>②デジタル化を推進するオンラインコア科目を設定。すべてをオンラインで行う授業よりは、一部対面授業で行う授業が多かった。オンラインと対面の両方のメリットを活かすブレンド型のニーズが高い。</p>
<p>(5) 大学院教育の充実。</p>	<p>○公認心理師、臨床心理士合格者数の増加のための施策</p> <p>○教育学専攻におけるリカレント教育</p>	<p>・公認心理師国家試験受験のための対策講座を実施。</p>
<p>(6) 学生の適正な成績評価を可能とするシステムの構築。</p>	<p>○学生の適正な成績評価を可能とするシステムの構築</p> <p>*ポートフォリオの構築、学修成果の可視化。</p> <p>*ルーブリックによる評価の導入と検証。</p>	<p>ルーブリックによる評価を導入し、学生に周知している。</p> <p>ポートフォリオの構築のための学修システムの導入を検討した。</p>
<p>(7) 通信教育部カリキュラムに関する改革。</p>	<p>○通信教育の概念の再検討と時代の変化に対応した通信教育カリキュラムの構築</p> <p>*教育分野に特色を持つスクーリング等のオンライン化及び社会人のリカレント教育。</p>	<p>通信教育部学生の増加を目的とし、リカレント教育を組み合わせた通信教育の改革を開始。</p>

<p>(8) 産学連携における教育の推進。</p>	<p>○企業との連携授業展開 *プロジェクト・ベイスド・ラーニングの更なる展開。 *企業との連携インターンシップの開発。 *キャリア科目、共通教育科目における企業人や専門家の講義。</p>	<p>地域企業（株式会社マルヤナギ小倉屋、早駒運輸、フェリシモ等）とのPBLプロジェクトを実施し、商品化及び広報活動の実践に取り組んだ。</p>
<p>3. 教育研究組織の改編・拡充に関する目標・計画</p> <p>(1) 時代の変化に対応して学部・学科の改組・転換を図る。</p>	<p>○学部・学科の改組・転換、学科定員の再検討、大学院教育の充実などの検討 *児童教育学科を教育学科へ名称変更（2024年度～）。 *教育学科で英語、数学、国語の中学・高等学校教諭一種免許が取得可能（2025年～）。 *入学定員変更（2025年度予定）、新学科・コースの検討。</p>	<p>2025年より学科定員を変更（国際文化学科48名、教育学科180名、スポーツ教育学科87名、計375名、教育学科3年次編入定員20名）した。また、教育学科に中高免許（英語、数学、国語の中高一種）を開設した。</p>
<p>(2) 地域における学び・研究のプラットフォームとして機能する。</p>	<p>○大学が地域や大学関係者の学びや研究の拠点となるような体制の整備 ○「探究」カリキュラム開発研究における高大連携活動の実施 ○他大学・学校園との協働開講科目 ○リカレント教育 ○幼児教育検討協議会の実施</p>	<p>2023年度に日本・OECD共同研究に参画し、カナダの研究者・教育者とも協働し、本学が探究・評価に関わるワークショップの実施、ブックレットの作成を行った。また、高大連携による「探究」カリキュラム開発研究チームとの探究学習の研究會を実施した。</p>
<p>(3) 大学のグローバル化を目指した組織の充実を図る。</p>	<p>○海外協定校との連携拡充 *長春師範高等短期大学との連携プロジェクト「幼児教育専門における短期教育に関する共同教育連携プロジェクト」（教員派遣）の実施。 *オンライン海外研修の実施。 ○海外留学、研修、海外インターンシップの充実 *海外研修、1年間海外留学の実施。オンライン海外研修の実施。 ○日本・OECD共同研究への参画</p>	<p>①長春師範高等短期大学との連携プロジェクトに本学教員を派遣。 ②「海外語学研修(アイルランド)」「海外教育実地研究(カナダ)」の実施。 ③国際文化学科国際コミュニケーションコースの長期海外留学、1・3・4期生はアイルランドヨーク大学で、2期は西オーストラリア大学で実施。</p>

<p>(4) 教育研究支援のための施策の充実を図る。</p>	<p>○他大学、自治体、企業との連携による教育・研究の支援</p>	<p>①2023年度に日本・OECD共同研究に参画し、教員・学生がプロジェクトの運営・実施に関わった。また、高大連携による「探究」カリキュラム開発研究チームを発足した。 ②神戸学院大学との連携協定に基づき、学生・教員交流などを行った。 ③姫路市高浜小学校生徒と教育学科学生とのオンライン交流の実施。 ④茨城キリスト教大学との海外研修共同実施に係る協定に基づいて「エアライン演習」に本学学生(2024年度2名)が参加した。 ⑤東京学芸大学、TFJと協働し本学通信教育部を活用した教育現場への人材派遣リカレント事業に参画。 ⑥実践教育プログラム『SAIL』の学生への周知徹底を目指し、年度末に優秀賞の表彰を実施。</p>
<p>4. 教員・教育組織に関する目標・計画(教員人材確保、FD)</p> <p>(1) 教員組織の編成方針を見直し、策定する。</p>	<p>○教員編成方針を見直し、改善し、長期計画及び改組転換計画に基づいた採用と教育課程の改革に対応した教員組織の検証と見直し ○女性教員の割合を50%に近づくように努める。実務家教員の割合は30%を目途。教員の年齢構成の是正、50歳以下の教員の割合を増加させるよう努める</p>	<p>教員組織の検証、見直しについて、中長期人事計画の策定には至っておらず、今後の課題。教員の年齢構成や男女比等の検討は引き続き必要。</p>
<p>(2) 教員の教育力の向上システムの充実を図る。</p>	<p>○FD等による教育方法の改善により教員組織を活性化</p>	<p>FD等の実施により、組織の活性化に努めた。</p>
<p>(3) 教員業績評価の充実を図る。</p>	<p>○教員業績評価の処遇への反映</p>	<p>教員活動評価の評価点の見直し、改善を図り、処遇への反映を目指した。</p>
<p>5. 学生の支援に関する目標・計画</p> <p>(1) キャリア支援体制を充実する。</p>	<p>○キャリア支援体制の検証と改善 *キャリア科目と就職支援行事との連携。 *企業・自治体と連携した多様なインターシップの展開。 *出口イメージを明確化したキャリア支援とその広報。 *公務員塾の活性化。 ○新たな就職支援イベントの実施 *WEB・対面による他大学合同イベントを開催。 ○コンソーシアムや就労移行支援事業所との連携 ○学生の就職支援の拡充</p>	<p>①WEBと対面での就職活動に対応し、Zoomと対面の両方での就職支援を継続している。また、「インターンシップ」は、三省合意により取扱いが変わったことで、実施を見合わせる企業も多く、企業と連携したインターンシップの実施が難しい状況である。しかし、就職ナビサイトを利用して短期間のオープンカンパニー、キャリア教育を実施する企業は増えており、学生の主体的な行動を促すような支援の検討が必要である。 ②就職支援 【キャリア教育の充実】 2023年度入学生より、1・2年次の必修科目に「ワーク&ライフデザインⅠ・Ⅱ」を開設し、授業担当者と連携することによ</p>

		<p>り、低学年からの職業観の醸成に努めている。また、課外活動としてプレゼンテーションスキルを学び合うグループ「SHINWA PLEC」の活動を開始し、キャリア支援活動の一環としてサポートしている。オープンキャンパスでの広報活動参加や PLEC の発表会で活動成果を披露した。また、2年次の「キャリアデザイン A」では、いろいろな業界や職種を知ってもらい、社会で働く意味や将来の職業選択と自己の可能性を考える機会となるよう、2024年度は6社の企業・自治体の方に講義をしていただいた。</p> <p>【留学生の就職支援の強化】 留学生対象の就職ガイダンスの回数を増やし、就職希望者への個別相談等の対応をした。</p>
<p>(2) 学生生活支援体制を充実する。</p>	<p>○学生間支援の新たな体制づくりと学生生活支援体制の検証と改善 ○奨学金制度の見直し ○障がいのある学生の支援策の充実</p>	<p>①学内の自動販売機をすべて入替もしくは場所を移し、学生が利用しやすいようにした。キャッシュレスを含む、最新機を導入した。</p> <p>②奨学金制度の簡素化。</p> <p>【学費支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学費支援制度は、毎年選考を行い、執行している。 ・授業料免除奨学金→当該年度の授業料を免除する。毎年約5名を採用している。 <p>【社会・文化・スポーツ分野及び学業における優秀な学生の表彰】 神戸親和大学奨励奨学金規程に基づき、社会・文化・スポーツ分野において優秀な成績を残した学生を表彰している。また、学長賞として、GPA の上位者及び、TOEIC スコア 700 点以上の者に対して、表彰を行っている。</p> <p>【留学生奨学金の簡素化】 出身校、出身国、入試により様々な減免、奨学金を設定していたが、パターンを3種類のみとする規程を制定し、複雑な奨学金の規程は廃止した。ただし、適用は2025年秋入学以降の留学生とする。</p> <p>③特別に支援を必要とする学生の支援。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある学生支援検討部会を学内に設置し、種々の問題に対応している。 ・具体的には、対象学生への面談や事後支援、またメンバー間の定期的な情報共有の機会を行っている。 <p>④父母の会からの補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラウンジに新しい机・イスを導入。

		<ul style="list-style-type: none"> ・シャトルバスの回数券について、学生が購入する場合 700 円の割引を補助。 ⑤親学会の環境整備 1号館と学生会館の間の植込みの場所を学生がくつろげる場所として、芝生化（人工芝）を行った。
(3) 学生の健康管理体制を充実する。	○学生の健康管理体制の検証と改善。学生相談体制の充実	学生相談体制の充実、留学学生への日本からの Zoom 相談対応を可としていたが、2024 年度は相談者なし。
(4) 課外活動支援体制を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> *課外活動支援体制の検証と改善。 *強化スポーツクラブの充実。 	共学への移行に伴い、男子学生の強化クラブを4クラブ設置。同好会からクラブ昇格への手続き等の簡易化を実施したことで、昨年度立ち上げた同好会3つが部へ昇格。
<p>6. 学生の受入れ（入試）の実施に関する目標・計画</p> <p>(1) 入試制度の改革・改善、情報提供の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新たな教育実践プログラム「SAIL」を中心とした広報活動 ○入学者選抜方法の見直し・改善など入試制度の改革・改善・簡素化及び、受験生への情報提供の充実 ○探究入試の改善 ○入学定員の確保 ○2024 年には目標在籍者数 170 人の留学生の受け入れと対応 ○入試データの分析と有効活用 ○兵庫県内を中心とした募集活動及び認知力強化 ○アドミッションコミュニケーターとの連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ①2025 年 5 月から始まったカリキュラム改革をタイムリーに訴求するため、地域共創科目、副専攻制度を年度初めから告知を行い、オープンキャンパスの参加者や HP で特設ページを制作し、周知徹底した。 ②英語外部試験のみなし換算制度を導入した。 ③探究入試を併願入試とし、試験内容のプレゼンテーション時間を変更することで出願者 1 名を獲得することができた。 ④2025 年度入試では、482 名（男子 222 名、女子 260 名、入学定員の 1.28 倍）の学生が入学し、2024 年度入試の 1.02 倍の入学生数となった。2025 年度入学の男子学生の割合は 46%程度と前年度を 5 ポイント上回っている。 ⑤入試データ（学生の出身地、出身高校）の分析により募集対策に活用した。 ⑥兵庫県からの入学者を図るため、地域特別連携協定校をつくり関係強化を図っている。 ⑦高校訪問を行うアドミッションコミュニケーターを交えた研修会を年 2 回実施し、連携を強化した。
(2) 多様な広報活動を展開し、募集活動の強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○広報戦略室では限られた予算の中で効果的な広報施策を行い、大学ブランディングに努め学生募集に繋げる ○トリプルメディアをどの様に組み合わせるかを明確に打ち出す施策 ○学科ごとの計画的、戦略的な広報活動の充実と展開 ○共学後の活気のある学生生活を想起しやすいパンフレットの作成と広報活動 ○出口イメージを明確にした発信 	<ul style="list-style-type: none"> ①プレスリリース、メディアに取り上げられるよう継続的に情報発信を行っている。 ②大学のホームページで、動画を流し、共学化により活気のある雰囲気を視覚的に伝えている。 ③教員採用試験に合格した 4 年次生のインタビューをまとめて特設サイトを制作し、4 年後のめざす学生モデルを明確に訴求している。 ④「先生になるなら親和！」の再 PR。高等学校一種教員免許状の取

	<p>(公務員塾等)</p> <p>○高大連携としての継続的な高校出前授業や教育プログラムの提供</p> <p>*親和女子高等学校Bコース生の適切な選抜方法の実施。</p> <p>○「先生になるなら、親和！」の再PR、小中高の教員免許取得周知</p> <p>○SNSを活用した広報の展開</p> <p>○協定校、特別連携協定校への学生募集活動の強化</p> <p>○日本語学校との連携強化</p> <p>○高校訪問の成果・課題の検証と改善</p>	<p>得をPRと、教育学科における教員採用試験実績をPRしている。</p> <p>⑤SNSを利用した広報を実施し、フォロワー数が上昇している。特に、動画制作に力を入れ、今まで以上に動画編集を工夫している。</p> <p>⑥特別連携協定校や協定校との高大接続授業の回数を増やし、高等学校との関係強化を図る。</p> <p>⑦高校訪問の成果の検証については入試結果データから検証し、次年度の訪問に活用した。</p>
<p>7. 教育研究環境の整備に関する目標・計画</p> <p>(1) 学生の成長を促す教育研究環境等の整備・拡充を図る。</p>	<p>○学生の成長を最大限支援するよう教育研究環境等を整備・拡充</p> <p>○電子資料を含めた図書館資料の拡充</p> <p>○学生のICT活用能力を向上、学びの深化を目的とし、必携パソコンの利用環境の整備、ネットワークの整備・増強、教室環境の整備・拡充</p> <p>*学園デジタル教育推進事業。</p> <p>○ラーニングコモンズの利用拡大</p> <p>○共学化に対応した施設設備環境の整備(スポーツ施設、更衣室、トイレなど)</p>	<p>①学生のICT活用能力の向上をめざし、パソコンの利用環境の整備、ネットワークの整備・増強を行った。Wi-Fi環境は格段に良くなった。</p> <p>②「英語なんでも相談室」、英語多読本活用イベント「しんわ洋書の森スタンプラリー」「ICTスキルアップ講座」「情報検索講座」などを開催し、学生達にとって、語学力、ICT活用能力向上の支援の場として定着することを目指している。</p> <p>③学園内ワークフローの利用が定着した。大学における各課学生提出書類の電子化の推進と支援を行った。</p> <p>④男子学生数の増加に対応したトイレ増設等の施設環境整備を行った。</p>
<p>(2) 地域貢献、大学スポーツの振興を図る。</p>	<p>○スポーツセンターを拠点とした大学スポーツの振興、地域貢献、地域連携センターによる地域貢献事業の展開</p> <p>○共学化に対応したスポーツクラブの整備</p>	<p>共学への移行に対応したスポーツクラブを整備した。</p>
<p>(3) 世界基準の教員養成拠点として基盤強化を図る。</p>	<p>○世界最先端の大学教育学部・附属校園と教育・研究に関するネットワークの構築</p>	<p>OECD共同研究の一環で、トロント大学附属JICSと教員養成における「探究学習」に関連する協働研究を行い、2023年度は2回のワークショップ、ブックレットの作成に結実している。</p>
<p>(4) グローバル化に対応できる国際人育成のための教育環境を創出する。</p>	<p>○国際人育成のための教育環境の整備(留学生との交流を含む)</p>	<p>2023年度に日本・OECD共同研究に参画し、教員・学生がプロジェクトの運営・実施に関わり、国内外の学生や研究者、教員とのネットワークを構築した。教員を目指す学生がOECD本体の学生グループINFINITYに参画し、未来の教育について自国・他国の学生達と連携し事業を実施した。</p>
<p>(5) 大学において研究倫理遵守の取組を進める。</p>	<p>○規程に則り研究倫理遵守の取組を遂行、再確認</p>	<p>研究倫理委員会や研修において取り組んだ。</p>
<p>8. 社会連携・社会貢献に関する目標・計画</p>		

<p>(1) 自治体、企業、NPO との地域貢献を超えた連携・協働を推進する。</p>	<p>○自治体、企業、NPO、学校とのカリキュラムでの連携・協働を推進する 学内体制の強化 *オンラインを利用した遠隔地との連携・協働。 ○神戸市北区、神戸電鉄、親和スポーツネットとの地域貢献事業の協力実施（子育て支援） ○姫路ヴィクトリーナ、早駒運輸、アンファー、フェリシモ、楽天モバイル等との連携</p>	<p>①神戸市北区等自治体や企業との連携協定を進めた。 ②オンラインを利用した姫路市の小学生との交流、子ども食堂での交流を児童教育学科で開始した。 ③地域貢献事業が復活し、学生の参加が増加し始めた。 ④フェリシモ、早駒運輸、アンファー、姫路ヴィクトリーナ、楽天モバイルなどとの企業連携事業を実施した。</p>
<p>(2) 地域住民の生涯学習機関としての機能を拡充し学生との共習をより促進する。</p>	<p>○公開講座やリカレント教育の展開により、地域住民の生涯学習機関としての機能の拡充</p>	<p>主として公開講座を実施した。</p>
<p>(3) 高等教育機関としての機能強化を図るため、大学間連携を推進する。</p>	<p>○海外の大学も含め国内外大学間連携の推進・強化 ○大学間教育連携プログラムの充実（科目等履修制度を含む）</p>	<p>大学間教育連携プログラムはコンソーシアム兵庫神戸の事業で本学も参画した。2023年度に茨城キリスト教大学と海外研修・演習の共同開催に係る協定を締結し、2024年度に「エアライン演習」を開講し学生2名が参加した。また、2025年度からは開智国際大学との教育連携プロジェクトを開始する予定である。</p>
<p>9. 大学の運営に関する目標・計画 (1) 機動的な大学運営ができるようPDCA実施体制により大学運営の改善改革を図る。</p>	<p>○運営組織を検証し、主体性を活かす取り組みとガバナンス体制を強化・改善 ○委員会の整理・合理化と「ゆとり」の確保</p>	<p>2023年度に全学内部質保証推進会議を立ち上げ、PDCA実施体制による機動的な大学運営を図っている。</p>
<p>(2) 適正な教職員数の確保を図る。</p>	<p>○中長期の運営を見据えた教職員数の検討</p>	<p>適正な教員数の確保について計画的に人件費比率を見据えながら採用人事を進めた。</p>
<p>(3) 教職員の資質向上を図るため研修を充実する。</p>	<p>○教職員研修の計画的実施。</p>	<p>FD、SD、教職員研修会等を実施。</p>
<p>(4) 大学の運営を支える事務組織を整備する。</p>	<p>○事務組織の「ゆとり」を生み出すための検証と改善</p>	<p>縦割りにならないよう柔軟な事務組織構築を目指した。</p>
<p>(5) 人権および個人情報保護の対策を強化する。</p>	<p>○教職員の人権および個人情報保護に関する体制の検証と改善</p>	<p>人権および個人情報保護に関する研修、およびそれらが阻害された場合の迅速な対応を取るようにした。個人情報保護について、社会の変化に対応すべき、教職員への情報提供などを実施した。</p>
<p>10. 大学の財務に関する目標・計画</p>		

<p>1) 安定的な財務運営を図る。</p>	<p>○的確な見通しに基づく財政計画の策定 ○財務関係比率の改善（人件費比率の減少等） ○大学の運営に必要な財政基盤の確立 ○寄附金募集活動の強化 ○研究資金等の外部資金を獲得</p>	<p>①財政計画に基づいて安定的な財務運営を図るために、学生確保と支出抑制により財政基盤の確立を目指した。合わせて、寄附金募集活動を実施した。 ②外部資金に関する情報公開及び科研費申請にかかる学内説明会を実施し、外部資金獲得のための支援を実施している。 ③財務強化戦略 * 3つの目標の計画的達成（事業活動収支差額比率・人件費比率・教育研究費比率） 大学単独での2025年度当初予算の事業活動収支差額比率は11.0%、人件費比率は44.9%、教育研究費比率については36.7%であり、2013年度（25.0%）との比較で11.7%改善した。 * 事業と予算の「選択と集中」の実施。予算編成については、理事長から示達される予算編成方針に基づき事業担当部署が予算申請書を作成し、学長によるヒアリング・事前相談を経て、10年構想5ヵ年計画を達成するうえで重要と考えられる事業に重点配分するよう配慮し、予算原案としてまとめている。 * 教職員の経営感覚の醸成 職員研修等において、法人より財政状況を説明するとともに、理事長講話、研修講演においても財政についてのテーマを取り上げ、大学執行部の教員に対しても決算報告の説明を行い経営感覚の醸成に努めている。</p>
<p>11. 内部質保証の体制に関する目標・計画 (1) 社会への説明責任としての内部質保証のための体制を整備する。</p>	<p>○内部質保証のための体制整備 ○IRデータの有効活用</p>	<p>2023年度に全学内部質保証推進会議を立ち上げ、PDCA実施体制による機動的な大学運営を図っており、加えて2024年度から外部評価委員会を立ち上げ、2025年2月25日に第1回の委員会を開催し、主に2023年度自己点検・評価報告書の内容について、意見等をいただいた。</p>
<p>12. 同窓会との連携に関する目標・計画 (1) 同窓会との連携強化を図る。</p>	<p>○同窓生相互のネットワーク強化 ○同窓会総会の実施。同窓会との定期的な連絡会の開催 ○同窓生の生涯学習の機会強化 ○同窓生の在学生へのキャリア支援</p>	<p>2023年11月3日、すずらん会と共催で同窓会を開催した。参加者へのアンケート調査などから今後のすずらん会組織の拡充と支部会設置についての貴重な情報を得ることができた。</p>

親和女子高等学校・親和中学校

以下、第3次10年構想5ヵ年計画の検証を行う。

第3次10年構想5ヵ年計画項目	重点項目	検証評価
<p>1. 教育内容</p> <p>(1) 教育課程及びシラバスの見直し</p>	<p>①新学習指導要領に基づく教育課程の編成</p> <p>②新学習指導要領に基づくシラバスの作成</p>	<p>①達成できた</p> <p>②全教科ともシラバスを作成し、HPで公表した。</p>
<p>(2) 新時代を生き抜く力を育む教育の推進</p>	<p>①「探究学習」の充実</p> <p>② 授業改善の推進</p> <p>③ICT 機器を活用した授業推進</p> <p>④思考力・判断力・表現力・主体性・多様性・協働性の育成</p> <p>⑤多様な能力を伸ばす教育システムの構築</p> <p>⑥総合進学コース一層の特色化</p>	<p>①研究推進部を置き対象学年を全学年に拡大、他行との合同発表会も3回目の主催で開催した。特に文科省指定「SSH事業」の推進によって、深い探究活動が可能になり、生徒の充実度は大きく高まった。</p> <p>②授業評価アンケートを実施している程度に留まっており、組織的に改善に向けた対応ができていない。</p> <p>③タブレットを活用した授業、課題配信等、活用を推進できた。ロイロノートなどの学習アプリも活用が定着した。一方で、管理面において教員の関りが不足している。</p> <p>④探究活動により環境は整った。授業を実施する教員のファシリテート力を伸ばす必要がある。</p> <p>⑤ハイレベルゼミ（放課後学習）・親和ゼミを開講した。今後は個別に相談ができる放課後学習を整備していくとともに、教員が利用者数の増加に積極的に寄与する必要がある。</p> <p>⑥キャリアノートによるキャリア教育を計画した。検証はできていない。</p>
<p>2. 教員組織・教育研究支援</p> <p>(1) 人件費の抑制を踏まえた教員の人事計画</p>	<p>①新コース等を踏まえた今後の教員採用計画の策定</p> <p>②長期採用計画の策定</p>	<p>①新しい教育課程に対応できる資質のある教員の確保を念頭に抜本的な見直しが必要である。</p> <p>②学校の将来構想と連動し策定する必要がある。</p>
<p>(2) 校務分掌の見直し</p>	<p>①各種委員会の再編</p> <p>②その他</p>	<p>①部の人員配置が脆弱であることから委員会に頼ることが多くなっている。学年担任と分掌の兼務、部人員の学年サポートを整備する。喫緊の課題はワーキンググループで対処する。</p> <p>②新コースにコース長を置き、コースの企画・運営を任せた。</p>

(3) 校長のリーダーシップ	①副校長、教頭の業務の明確化 ②管理職及び部長、主任の役割と責任の明確化 ③校長補佐、副教頭の業務の明確化と権限委譲	①業務の大枠は決まっているが責任分担が曖昧である。 ②校長の校務運営を支える意識が希薄であり、管理職と分掌長との組織的連動が急務である。校長が発する方針が組織的に徹底されていない。目標管理を通じて連携を強化する。 ③副教頭は廃止（空席）とした。
(4) 教員の指導力の向上	①授業評価アンケートの活用と授業改善 ②人事交流研修制度の構築 ③指導教諭の配置 ④アクティブラーニング等研究委員会活動の活性化	①アンケートデータ、主なコメントを教員個人に返却しているが活用は教員に委ねているのが現状である。 ②開智学園との研修を実施している。 ③新採用の教員に適宜指導を行う教員の配置が必要である。 ④コロナ禍以降、再開できていない。
(5) 神戸親和大学との連携	①アクティブラーニング等共同研究の実施 ②教員研修への講師招聘	①共同研究はできていない。 ②高大連携事業、接続事業で週1日の大学での受講、年4回の来校での講義を継続実施する。
3. 生徒募集 (1) 入学者の安定的確保 (中学 190、高校 80)	①中学校・塾との関係強化 ②求める生徒像と入試制度 ③イベントの拡充 ④ホームページの充実	中学は共学化により入学者は増加したが、高校は増加に至っていない。 ①主要塾とは常に情報交換できる体制は整っており、中学訪問については訪問体制を構築できつつある。 ②新コースにあわせて目標進路、人材育成方針を明確に設定した。入試方法も連動させた。特待生制度を拡充させ、多くの能力高い生徒を集められた。 ③校内の学校見学会・説明会の頻度を上げ、定例化した。一方、高校入試のイベント設定が弱い。 ④業者を替えてホームページリニューアルを行い、学校案内冊子を含めた広報活動を充実させた。
(2) 多様な能力を持つ生徒の確保	①多様性特別選抜入試の充実 ②帰国子女受入れの拡大 ③指定校推薦提携校の拡充	①プレゼン入試、英語資格入試を導入しているが、出願者数は減少傾向にある。 ②日本人学校の開拓に努めたが、受入れの寮がない状況では効果は限定的である。 ③1校私立小学校と協定しているが適当な対象校はない。
(3) 高校募集の充実	①中学校訪問の強化（認知度向上） ②コースの特色化	①教職員の全身体制で行うとの方針が示され、昨年に比べて多くが参加した。しかし、中学校訪問の効果や意義が明確にはならなかった。塾対策を優先する。 ②コース名を変更したがその成果は現れず、教育内容が問われている。
(4) 少子化、女子教育離れの現状認識の共有	教員研修会の実施	共学部設置に伴い入学者数が昨年度比1.5倍となった結果からも、女子部・共学部併置がもたらした結果を教職員は理解し、現状認識も共有する必要がある。

(5)生徒寮の建設		財政的理由と中学生を寮生として預かる難しさから構想を見送っている。
4. 学習支援 (1) 学習支援	①ICT を活用した教育 ②ラーニングコモンズルームの活用	①タブレット全員保有（中学は GIGA スクール対応）により、授業及び自宅学習で活用している。次年度からプログラミング教育の充実のため中1・中2でPC購入へと切り替えていく。 ②授業や放課後自習、グループワークで活用している。
(2)生徒指導	①モラル・マナー教育指導	高校では人権教育、中学生は道徳教育の中で指導している。しかし、いじめ事案が発生し、その対応に教員は苦慮している。
(3)奨学金	学習奨励生の基準の見直し	入試制度の変更にあわせて基準を見直した。また、中学では特待生入試を導入し募集を教科した。強化クラブの募集にあわせてスポーツ奨励生の選考も行っている。
5. 進路指導 (1)進路目標の設定	①難関国公立大現役 10 名、浪人 20 名、医学部 5 名、関関同立現役 100 名合格 ②国際コース指定校枠新規 5 校獲得	①数値目標を定めて具体的な方策を講じる必要はあるが、昨年度は目標の 6 割程度しか達成できなかった。 ②目標は達成できていない。
(2)新大学入試への対応	①英語 4 技能への対応 ②思考力・判断力・表現力・主体性・多様性・協働性の育成 ③校外活動の充実と灘区との連携強化	①中学では英会話の授業、高校ではオンライン英会話の授業を実践している。イングリッシュルームを設置し日常的に英語に接することができる環境を整えている。 ②探究により強化している。 総合型選抜入試の指導も強化しているが活用する生徒が少ない。 ③いずれも不十分である。
6. 国際教育 (1)教育プログラムの充実		2023 年度からイギリス語学研修、ニュージーランドホームステイ研修、異文化探究研修を再開した。2024 年度からはサイエンスツアーを実施した。
7. 校務運営・財務・人事 (1)教職員の意識改革	①危機意識の醸成 ②直面する教育課題への認識 ③共学部男子の受入に対する不安解消	①生徒募集の状況から現実には理解できていると思うが自意識的認識に欠ける。 ②不登校、いじめ、盗難事案等、状況把握と対応策を関係者で協議する必要がある。 ③男子受入やいじめに関する研修を実施したが、不安を感じている教員は自分事として意識高く研修に参加した。
(2)評価体制の確立	①授業評価の在り方の検討と活用 ②考課制度の検討	①評価項目の精査、評価結果の活用を検討する。 ②2025 年度目標管理制度を試行的に導入する。

(3) 財政健全化への取り組み	①生徒納付金、補助金収入の確保 ②寄付金収入の確保 ③人件費の抑制 ④教研費・管理経費の精査	①2025年度中学入学生は増加したが、卒業生数を上回ることはできず、在校生数は減少となり、納付金は減少した。 ②保護者、卒業生、教職員、取引企業を対象に寄付を募集し、2021年度10,178(千円)、2022年度12,285(千円)、2023年度12,705(千円)と増加が続いていたが、2024年度は9,550(千円)と減少した。 ③中長期採用計画と連動し教員数の調整を行う。 ④緊縮予算の中で調整している。
8. 学校環境整備 (1) 大規模改修工事計画の策定	①外壁改修工事 ②体育館屋根改修工事 ③緑化整備	①2023年度から3期に分け実施を計画したが、老朽化による緊急工事、美観上の観点から2024年度に2期分を前倒して実施した。共学化に伴い、男子トイレの増設、女子トイレの改修・改装、高校棟教室内の内壁・床の改修工事を実施した。 ②2022年度に実施した。 ③正門から西側の樹木の大規模伐採を実施した。
(2) 教室改修工事	①講堂内LED照明取替工事 ②生徒ロッカー交換	①2023年度に計画の予定であったが先送りし、2025年夏季に施工予定。 ②対応済み。
(3) その他	①デジタル案内板の設置 ②職員室・事務室のリニューアル(オープンドア化) ③神戸市西区からのスクールバス運行 ④グラウンドの整備	①2021年度デジタルサイネージ2機を卒業記念品で設置した。 ②予算措置ができず先送り。 ③2020年から運航開始。 ④女子部・共学部併置に伴い、グラウンドの人工芝生化を2024年3月に実施。
9. コース開発 (1) 中学のコース改編	SSコースの設置	2024年度からSS/ST/GLの3コース制に改編した。
(2) 中学Sコースの習熟度編成	中学Sa, Sbの編成	2021年度から実施した
(3) 高校スポーツ・文化芸術系コースの設置	特進B(現:スポーツ・カルチャーコース)の新設	2021年度から実施した。

②2024年度事業計画の進捗・達成状況

1. 教務関係

- (1) 教育課程の改編と免許取得の拡充
 - 2025年度からの新しい教員免許取得制度の準備が完了
数学（中学・高校）、英語（高校）、国語（中学・高校）の免許取得が可能に
2024年度にカリキュラム改訂が完了し、2025年度からの実施に向けて準備完了
- (2) 「実践教育活動（SAIL）」の強化
PBL（課題解決型学習）や地域連携プログラムの拡充
実習・インターンシップ機会の増加（特に教育分野）
ICTを活用した授業の導入（学習サポートなど）
- (3) 共通教育（リベラルアーツ）の見直し
地域共創科目群の設置に伴う、設置科目の精査
キャリア教育との連携強化（1年次からキャリア設計を意識）
- (4) ICT・デジタル教育の推進
 - デジタル教材の活用・オンライン学習支援の導入
eラーニングシステムのアップデート（LMSの改良）
ICT活用の教育実習準備（模擬授業での積極的活用実施）

2. 国際交流関係

- (1) 海外の大学、他教育機関との交流
2024年度はホーチミン市師範大学から2名およびソウル女子大学から2名、計4名の交換留学生を受け入れた。
- (2) 海外研修・留学
2024年度海外研修は、秋学期研修のうち「海外語学研修（アイルランド）」（8名参加）、「海外教育実地研修（カナダ）」（7名参加）、「アジア文化研修（ベトナム）」（9名参加）を実施した。
- (3) 外国人留学生
 - ①新入学の留学生に学生生活指導実施（4月および9月の日本入国時）
 - ②2024年度春学期および秋学期に入学した外国人留学生は49名である。（国際文化学科25名、心理学科3名、教育学科2名、スポーツ教育学科1名、3年次編入学9名、大学院教育学専攻5名、科目等履修生（3+1）4名）
 - ③2024年5月時点での外国人留学生総数は165名である。（中国98名、ベトナム33名、ネパール18名、スリランカ5名、韓国4名、バングラディッシュ3名、ミャンマー2名、モンゴル1名、台湾1名）

3. 地域交流・子育て支援関係

- (1) 公開講座
2024年度はすべて対面形式で実施。春学期5講座、秋学期6講座、計11講座開講した。
- (2) 地域交流
 - ①地域交流プログラム
2024年度のキッズオープンキャンパスは2024年10月12日（土）に、予約制から当日自由参加制に変更して開催した。初めて学生実行委員会を組織して、学生ブースだけでなく、神戸市北区役所やみなと銀行、神戸甲北高校など、地域の諸団体のブース参加もあり、1000名を超える来場者を迎え実施した。また、地域の様々な祭りにも学生ボランティアが多数参加するなどコロナ禍で中止となっていたイベントにも昨年以上に大学として多く参画することができた。

②神戸市北区との協力プログラム

2024年6月1日(土)に有馬ホールにて「第48回きたきたまつり」が開催され、ダンス部学生9名がダンスを、本学の田中・宮辻両教員とゼミ生17名が「きたきた!元気体操」を披露した。また、2025年2月9日(日)に、ベルスト鈴蘭台3Fにおいてワークショップイベント「北区立体マップであそぼ!」を開催した。本学須増教員と学生9名が、ワークショップを行った。

③ふれあい喫茶

高齢者の閉じこもり予防として、社会福祉法人神戸市社会福祉協議会と連携して、毎月第1水曜日に「ふれあい喫茶」を開催してきた。2024年度は第1水曜日に10回(8・1月を除く)実施した。また、地域の認知症者支援団体である「オレンジ110番」の協力事業団体として参加。

(3) 学生ボランティア

地域の活動に加えて昨年に引き続いて神戸マラソンにもおよそ80名の学生ボランティアが参加するなど、一定の成果を得た。神戸市立森林植物園やエコール・リラのイベントにも音楽ゼミを中心に参加させていただいた。さらに、本学が指定管理を行っているゆりのき台児童クラブにおいて、初めて学生ボランティアによるイベントを開催することができた。

(4) 子育て支援ひろば『すくすく』

2008年1月に本学と神戸市が連携して開設した「子育て支援ひろば『すくすく』」も15年以上経ち、地域の方々に支えられ、延べ66,000人以上の親子に利用いただいた。学生ボランティアも延べ10,200人を超え、学びの場として位置づけられている。また、「リトミック」や「水遊び」、「運動会ごっこ」などの季節のあそび、製作活動を中心に、利用者のニーズに即した講座を数多く行った。

(5) 大学コンソーシアムひょうご神戸の学生交流委員会

2024年度は理事校として、毎月開催される企画運営委員会に参加。昨年度に引き続き、私立大学等改革総合支援事業(タイプ3プラットフォーム型)に採択された。また、学生交流委員会が実施した取組I WILL BEプロジェクト「テーマ型の学生交流プロジェクト」に本学学生が参加し優秀な成績をおさめた。

(6) 第3回北区ジュニアスポーツフェスティバル開催

NPO法人親和スポーツネットが主催者となり、本学の学生有志が実行委員会を構成し計画から実行までを行った。子どもたちが多くのスポーツに触れ、体験できるイベントとして開催。メジャーなスポーツだけでなく、多くの競技に触れ合うことができ、地域の子どもたちに体験してもらえる機会を提供することを目的として、全9種類のうち3種類のスポーツを学生手引きのもと体験してもらうプログラムを実施した。参加者は61名、学生ボランティア79名の学生が競技指導にあたった。また、江崎グリコ株式会社様から商品提供の協賛をいただいた。

4. 学習教育総合センター関係

(図書館)

- (1) 年間の開館日数は、278日、入館者数は28,388人、貸出冊数・貸出人数は3,996冊・1,827人であった。
- (2) 資料は、図書・製本雑誌・視聴覚資料計671件を受け入れた。
- (3) 学術情報の提供としては、当館からの依頼(当館利用者の他館資料利用依頼。照会を含む)38件、他館からの受付294件の処理を行った。また入手可能な資料はできるだけ購入して当館利用者に提供した。また、2022年度より国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの参加館となり、資料の閲覧・複写サービスを提供しているが、2024年度は、利用者がなかった。
- (4) 研究成果の保存と公開促進のため、本学紀要論文を刊行後速やかに本学リポジトリで公開した。
- (5) 環境整備としては、利用者が資料を探しやすくするため、引き続き書架の配架調整を行った。また、図書館システムを刷新し、本学蔵書のみならず他大学図書館等との横断検索を充実させた。
- (6) 広報・利用促進活動としては、開館期間中は毎月テーマを選定して展示を行い、ホームページでも発信をした。また利用者教育として、全1年次生に対し必修科目「基礎演習」内で図書館ツアーを行った。

また、「文献情報検索講座」は、大学院生の専門ゼミは2ゼミ12名、3・4年次の専門ゼミは9ゼミ59名、2年次は、合同実施で200名に対して実施し、個人講座も2件の申し込みがあり実施した。

(情報処理教育・ITサポート)

- (1) 必携パソコンをより活用できるよう、目的、学内での利用ルール、学内ネットワークへの接続方法などを、オリエンテーションのみならず共通教育必修科目「ICT基礎I」にも組み込み学生達の躓きを減らす試みを実施した。
- (2) 遠隔形式・対面形式に関わらず、全授業において教材・資料や課題、提出物のデジタル化を進める大学方針の下、教員・学生のサポートを行った。
- (3) 学内のネットワークとサービスの安定運用を目的とし、「神戸親和大学ネットワーク増強計画第2期」を実施し、ネットワーク機器の更新と基幹の増強を図った。
- (4) センター講座
2022年度からは、大学生協のWeb資格対策講座を推奨することとしている。2024年度の受講生は3名に留まっており、今後検証していくことになった。
- (5) ICT活用を継続・推進するための情報環境整備【継続】
 - ・遠隔授業において、Microsoft365のTeamsを全授業で活用できるよう整備。
 - ・Office無料配付を実施。Microsoft社の制度を利用し、学生の個人PCへのOfficeの無料の配付を行っている。
 - ・必携パソコンからも印刷できるよう印刷管理システムにモビリティプリント機能を追加導入。

(ラーニングコモンズ)

2016年3月に開設されたラーニングコモンズは、通常の自習利用のほか、学生主催の勉強会・発表準備・プレゼンテーションの他、教員主催の勉強会、学科・各部署主催の催しで利用、また、就職セミナーや卒業生懇談会など各種セミナーや学科行事等にも利用されている。また語学力、ICT活用能力向上の支援の場として定着することを目指しており、以下の企画講座を実施した。

- ・「文献検索講座」6回
- ・「ICTスキルアップ講座」4回
- ・英語多読本活用イベントとして「しんわ洋書の森スタンプラリー」を図書館と共同で実施。開室は、年間288日(内、対面窓口160日、Zoom窓口66日)。

5. 国際教育研究センター

- (1) 国際教育フォーラム
2024年度は5年ぶりに国際教育フォーラムを開催した。
「幼児教育の現状・課題・未来 ～デジタル時代における幼児教育を考える～」をテーマに、シンポジウムでは韓国及び中国から先生をお招きして講演いただき、意見交換を行った。
- (2) 言語交流サロン
実施せず。
- (3) 「英検セミナー／英語なんでも相談室」
実施せず。
- (4) オンライン外国語教育研究会
実施せず。
- (5) 国際教育研究センター紀要
国際教育研究センター紀要は隔年発行としていて2024年度は発刊を行った。

6. 研究成果

- (1) 「神戸親和大学 研究論叢 第58号」
- (2) 「児童教育学研究 第44号」
- (3) 「教職課程・実習支援センター研究年報 第7号・第8号」
- (4) 「国際教育研究センター紀要 第8号」
- (5) 「神戸親和大学大学院紀要 第1号」
- (6) 「親和國文 第48号」

7. 入試関係

(1) 2025 年度の入試結果

2025 年度入試は、共学化 3 年目に該当し、他大学の共学化や外部環境の影響が心配されたが、定員 375 名に対して、入学者数が 482 名と昨年を 13 名上回る結果となった。入学定員充足率は 128.5%となった。

このような結果となった主な要因は、①総合型選抜 A0 入試での入学者確保、②学校推薦型選抜指定校・協定校入試での入学者確保、③男子学生の確保だと考える。

①総合型選抜 A0 入試では 87 名を確保。昨年の 60 名に比べ約 1.45 倍となった。内訳は国際文化学科 7 名、心理学科 18 名、教育学科 33 名、スポーツ教育学科 29 名である。

②学校推薦型選抜指定校・協定校入試は 179 名を確保。昨年の 170 名に比べ微増となった。内訳は国際文化学科 9 名、心理学科 18 名、教育学科 91 名、スポーツ教育学科 61 名である。

③男子は全体で 222 名となった。また、女子は 260 名となり昨年の 279 名よりも減少した。男子学生への認知拡大と本学の教育学部のポジションが確立していることから、この結果に繋がっていると推測している。

男女共学に変革していくことに兵庫県内の高等学校の理解があり、このような結果となったと考えられる。専願入試比率が約 66.9%(337 名)と高いが今後もこの傾向を取り入れて、年内入試での早期確保をめざしていきたい。

(2) オープンキャンパス

2025 年度募集（オープンキャンパス実施は 2024 年）は昨年と同じ回数を実施し、高校生、保護者と直接的な接点を持って大事に取り組むことを心がけ、「男女共学」後の大学の活発な学生の雰囲気や、女子大のころから継続している「面倒見のよさ」を強調したオープンキャンパス（以後、OC）を実施できた。OCでは、男子学生の協力を促進し、また学生広報スタッフでも毎回男子学生が参加できるよう調整した。

来場者数については、3 月に実施した OC の参加高校生は 82 名となり昨年の 3 月開催時の 114 名を下回る結果となったが、5 月 OC・6 月 OC は昨年度の参加者数を上回る結果となった。その後の参加者は 7 月 OC の開催では、高校 1・2 年生の参加者が昨年度よりも減少している。なお、高校 3 年生は昨年度と変わらない参加者だった。

2024 年 3 月～2025 年 9 月開催分の参加者数を比較すると下記の様になった。

今年：1,273 名（昨年：1,350 名）

今年度の傾向としては、高校 3 年生参加者数としては、昨年度とほとんど変わらない結果になっている。しかし、高校 1・2 年生の参加者数が減少しており、夏休み中の OC 参加を宿題にしている高等学校も増えている中で、この時期に参加者が減少していることが次年度の学生募集に影響するのではないかと危惧している。

まだまだ、課題はあるが次年度に向けて、さらに多くの高校生に本学の良さを知ってもらうため、昨年度同様の回数に加え、WEB 広告配信やハウスリストに対する DM 発送を中心に本学への進学意識を醸成させる施策を行っていく。

8. 就職関係

(1) 教職課程・実習支援センターでは、教職をめざす学生への実習指導や、キャリアセンターが行う講座以外に教員採用試験対策セミナーを実施し、教職への就職を支援している。

公立教員採用試験合格者数は小学校 53 名、中学校(国) 4 名、特別支援学校 8 名であった。公立幼稚園教諭・保育教諭・保育士採用試験合格者数は 10 名であり、私立を含む幼稚園・保育園・認定こども園・児童福祉施設に就職をした学生は 60 名で 100%就職先が決定した。

(2) キャリアセンターでは、一般企業や公務員、福祉施設を希望する学生に対してもガイダンスや多くの行事・講座において就職活動をサポートしている。個人面談等、きめ細かいサポートを行うことに特に力を注いでおり、教採・教育関係への就職を除いた一般企業等への就職状況は、業種別に、卸売・小売業、ホテルやスポーツ施設等のサービス業、運輸業、不動産業への就職率が上位となっている。

(3) 厚生労働省と文部科学省の共同調査（2025 年 2 月 1 日現在）による 2024 年度「大学等卒業予定者の就職内定状況調査」では、大学生の内定率は 92.6%で、前年度同期より 1.0 ポイント

上昇、私立大学における内定率も 92.5%であり前年度同期より 1.7 ポイント上昇している。本学の 2024 年度の全体の就職率は 98.3%＜前年度 97.8%＞となっている。(2025 年 5 月 1 日現在)。

9. 奨学金関係

(1) 本学独自の奨学金制度を設けており、2024 年度の実績は下表のとおりである。

(金額単位：千円)

奨学金制度の種類等		対象人数	給付・貸与金額
一般学生 を対象	授業料免除	5	4,350
	貸与奨学金	1	(注1) 200
	入学金免除(院)	10	2,000
	植田奨学金	0	0
	福祉特別貸与奨学金	0	0
	学習奨励・スポーツ奨励	162	98,295
	奨励奨学金、学長賞	17	850
	沖縄奨学金	0	0
	ファミリー・姉妹免除	23	4,430
	小計	218	110,125
留学生 を対象	所定の学習要件を充足した留学生に対する		
	授業料減免(大学院生)	25	2,095
	授業料減免(学部生)	106	27,535
	給付奨学金(大学院生)	21	1,860
	給付奨学金(学部生)	98	24,780
	住宅補助金	30	3,280
小計	280	59,550	
総合計	498	169,675	

注(1)2025年3月31日現在の貸与残高は23,557千円

(2)日本学生支援機構の奨学金については、貸与奨学金(無利子、有利子)および給付奨学金あわせて829名(延べ人数)が受給した。

10. 保健室関係

(1) 定期健康診断

- ① 受診者数 学生 1,475名 教職員 164名
② 受診率 学生 97.6% 教職員 93.2%

(2) 学生相談

- ① 精神科校医、カウンセラー3名が心理相談に対応
② 学生相談室のPRを目的に、年1回(10月)イベントの実施
③ 学生相談室便りの発行

(3) 保健室における応急対応

年間利用者数 686名

(4) 教職員対象にインフルエンザ予防接種の集団接種実施

接種者数 42名

11. 課外教育活動関係

(1) 文化・学術・体育・ボランティア活動や大学祭など、多岐にわたる学生の自主的活動については、学生生活における自立性・社会性の育成、学生相互の啓発等、人格形成上の教育効果を期待し、振興している。2020年度から発生した新型コロナウイルス感染症における活動の縮小から、2024年度はほぼそれ以前同様もしくはそれ以上に回復している。

(2) 体育総部の課外活動団体競技では、下記の結果となった。

<強化クラブ>

◆男子バレーボール部

関西大学バレーボール連盟春季リーグ戦 5部優勝 4部昇格
関西大学バレーボール連盟秋季リーグ戦 4部優勝 3部昇格

◆女子バレーボール部 関西大学バレーボール連盟春季リーグ戦 1部 1部優勝

第50回西日本バレーボール大学女子選手権大会 準優勝(3年連続)

関西大学バレーボール連盟秋季リーグ戦 1部 1部4位

第51回マルイチCUP 兵庫県バレーボール大学男女選手権大会 優勝 7年連続 11回目

PhitenCUP 関西バレーボール大学男女選手権大会 準優勝 4年連続

第71回秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会

ミキプルーンスーパーカレッジバレー2024 ベスト16

◆男子バドミントン部

関西学生バドミントン春季リーグ戦 3部優勝 2部昇格

関西学生バドミントン秋季リーグ戦 2部6位

◆女子バドミントン部 関西学生バドミントン春季リーグ戦 2部6位

関西学生バドミントン秋季リーグ戦 2部5位

◆男子剣道部

第50回兵庫学生剣道大会(男子個人) 準優勝 白國史也(2年次生)

ベスト4 田島広翔(2年次生)

兵庫学生剣道大会 新人戦 第3位 村川 智哉(1年次生)

◆女子剣道部

第50回兵庫学生剣道大会 女子個人戦

・優勝 盛迫美玲(3年次生)

・ベスト8 大玉麻衣(4年次生)

・ベスト8 満永柚香(3年次生)

第54回関西女子学生剣道選手権大会 第3位 盛迫 美玲(3年次生)

第22回兵庫県剣道選手権大会 ベスト4 盛迫美玲(3年次生)

兵庫学生剣道大会 新人戦 準優勝 濱田 優羽(2年次生)

全日本女子学生剣道優勝大会 ベスト16

◆男子卓球部

関西学生春季卓球リーグ戦 男子4部 4部優勝 3部昇格

関西学生秋季卓球リーグ戦 男子3部 3部4位

◆女子卓球部

関西学生春季卓球リーグ戦 女子3部 3部A2位

関西学生秋季卓球リーグ戦 女子3部 3部B2位

◆ソフトボール部 第55回春季関西学生ソフトボールリーグ 2部3位

第55回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦 2部2位

◆サッカー部 関西学生女子サッカー春季リーグ戦 1部8位

関西学生女子サッカー秋季リーグ戦 2部5位

◆ソフトテニス部

令和6年度関西学生ソフトテニス春季リーグ戦 2部2位

令和6年度関西学生ソフトテニス秋季リーグ戦 2部3位

西日本学生ソフトテニス選手権大会

ダブルス3位 西村心那(3年次生)・上野寧々(2年次生)

◆バスケットボール部

関西学生女子バスケットボール秋季リーグ戦 2部5位

◆硬式テニス部

令和6年度関西大学対抗テニスリーグ戦女子 3部 3部6位

<クラブ、同好会>

◇相撲部 第12回国際女子相撲選抜堺大会 団体戦 第3位

第11回全国学生女子相撲選手権大会 個人戦

軽量級 3位 古瀬 愛恵(4年次生)

中量級 3位 長門 美咲(3年次生)

◇弓道部 関西学生弓道リーグ戦 5部A3位

◇女子ハンドボール部 関西学生ハンドボール連盟秋季リーグ戦 3部 3部2位

◇水泳部 第98回関西学生選手権水泳競技大会 3部優勝 2部昇格

1 2. 通信教育部

(1) 入学者数及び科目等履修生在籍者数

① 2023 年度入学者数

	4 月入学	10 月入学
教育学科※1	9	2
児童教育学科	18	6
計	27	8

※1 2024 年度「児童教育学科」から学科名称変更（3 年次編入学は児童教育学科）

② 科目等履修生在籍者数 165 名

内訳：協定 25 大学中 19 大学 101 名、本学通学部 25 名、一般 4 月入学 26 名、一般 10 月入学 13 名

(2) スクーリングの開講

期間：2024 年 4 月～2025 年 2 月

開講日数：73 日

開講科目数：延べ 98 科目

受講者数：延べ 855 名

(3) 科目修了試験の実施

期間：2024 年 4 月～2025 年 2 月

実施回数：12 回

受験者数：延べ 1,788 名

1 3. 大学評価関係

2021（令和 3）年度、公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）において、大学基準に適合しているとの認定（2029 年 3 月 31 日まで）を受けた。

2023 年度に、内部質保証推進会議を立ち上げ、各部局別内部質保証委員会を設置した。合わせて認証評価結果への対応を盛り込みながら、大学評価委員会において検証を行った。また、自己点検・評価報告書をホームページで公表した。

I R 推進室を中心に、学修行動調査および満足度調査において共通する調査項目を用い、学修行動・学修成果の把握をディプロマ・ポリシーで定める能力に結び付け、学生にフィードバックする取り組みとループリックによる学修到達度の調査を実施した。

加えて 2024 年度から外部評価委員会を立ち上げ、2025 年 2 月 25 日に第 1 回の委員会を開催し、主に 2023 年度自己点検・評価報告書の内容について、意見等をいただいた。

1 4. 附属親和幼稚園

幼稚園は認定こども園として 5 年目を迎えた。今年度は、自然とのかかわりや異年齢でのかかわりを重視し、日々の戸外遊びをネイチャータイムと名付けて遊びを継続した。このことにより、子どもの興味関心に沿って環境構成を工夫すると共に、年齢ごとの発達に応じた遊びや経験について教師間で配慮するように心がけた。

ダイナミックなこの遊びの展開は、学年や学級の枠組みを超えた教師間の連携が必要で、従来の指導案では対応できないことが分かってきた。そこで、二十四節季ごとにマップ型の指導案を全職員で作成することにした。このことにより、保育に研究的な視点が生まれ、職員間のスムーズな連携と共に、子どもの交流も広がり、特に異年齢のかかわりでは憧れやいたわりなどの心情の育ちが見られた。この遊びの中の子どもの成長や気づきを、エピソード記録に残し、子どもの育ちや学びを記録した。これらの研究は、神戸親和大学佐藤教授（本園ディレクター）の助言をいただきながら、実践と理論をつなぐ園内研究会として推進し、今後も親和 3 園の合同研修会を始め、情報交換を今後も継続する。

また、今年度は子どもの興味関心に沿った英語教育や ICT 教育に取り組んだ。子ども自身が主体的に英語や ICT にかかわることで、子どもの中に、英語を知りたい気持ちやタブレットに触ってみたい気持ちが膨らんでいる。

さらに、子どもの遊びや生活を重視し、行事の在り方を見直すと共に、評議員会・第三者委員

会を立ち上げ、園評価の充実にも取り組んだ。この結果、子どもを取り巻く環境構成の具体的な取組内容の改善点と小学校との連携等、幼児期に身に付けてほしい習慣や力が明確になった。

親和女子高等学校・親和中学校

1. 学校経営方針・経営戦略

項目	目標	達成状況	評価
(1) 入学数の維持・確保	中学 170 名、高校 60 名	中学 157 名、高校 24 名	C
(2) 学校評価・授業評価	課題を自覚し組織的に改善	授業改善への取り組み不十分	C
(3) コースの教育開発	社会に呼応した特色化	新コース(SS)については高評価、ST、GLは並評価	B
(4) 少子化対策・将来構想	将来の方向性を議論	女子部・共学部併置の計画的準備	A
(5) 教員配置計画再考	分掌統合・執行部体制見直し	担任の分掌兼務、執行部見直しを実行	C
(6) 教員評価制度	評価に基づく給与制度検討	教員褒賞金制度制定	C
(7) 理科実験室改修	収支の範囲内で改修	実施できた	A

S:達成し成果が確認できた A:達成できた B:概ね達成できた C:不十分 D:未着手

【補足説明】

(1)について、学校の生徒数の回復を意図し、これからの時代を担う人材の育成をミッションとして、中学において女子部と共学部を併置し募集に臨んだ。結果として、入学者は目標数に届かなかったが、男子 28 名を含む 157 名の入学は本校の新たな歴史の第一歩となった。高校についてもコース名称の改名を行った 2 年目で周知はされているが、コース・教育内容については従来と変わらない程度の変更であったことで特色化を打ち出すまでには至らなかった。

(2)について、3 年目の「学校評価（保護者・生徒）」のアンケート調査を実施した。進学実績の不調からくる本校への期待感の低下、不安指数の増加も見られ、基本的な学習習慣の定着と進学に直結する成績の向上、適切な受験指導による実績の回復が望まれる。全体的な学力レベルが低下していく傾向がみられる中、地に足のついた学習指導と個に応じた丁寧な学習指導を行うため、放課後学習のシステムを開始した。しかし、利用人数は少なく、生徒に声を掛けている学年に限定される利用者数となっているのは課題として残る。また、授業に関するアンケート評価については、数字だけでなく、生徒の声に率直に耳を傾け教員自身が自分の授業の仕方などを振り返るとともに、他の教員の授業を相互に参観し、意見交換するなどの新しい対応策を講じる必要がある。

(3)について、コースのミッション・コースポリシーを実現するための特別なプログラムの開発、SSH を絡めたコースの教育内容を構築し、コース及び学校の特色化を進めた。実験理科、特別講座等は本校の特色化・魅力化として、今後の広報材料に活用できる内容である。

(4)について、子供の数は 12 年後まで決まっている。本校が生き残り社会から必要な学校として認知されることが重要であった。そこで、昨年度末に急遽女子部・共学部の併置が決定し、6 月に公表した。準備期間がわずか半年余りと短い中で、校長補佐を中心として委員会・部会・プロジェクトチームを組織し、計画的に準備を進めた。その結果、制度改革・教育改革はほぼ準備を終えた。

(5)について、校長の学校経営を補佐する管理職、執行部、部や学年の部長・主任、その所属の教員にまで伝わらず、過去の慣例にならった議論から脱却できない組織ともいえる。これを変える必要性があり、役職者が役割を自覚しチームで協働できる組織となることが求められている。その意味からも管理職、執行部体制を刷新することを決定し、役職者にも一定の調整役を担っていただくことから新規に役職手当を支給したが、それだけの成果を出しているかは総括が必要である。

(6)については、上記(5)が前提ではあるが、組織が組織として機能するために、学校の目標に基づく組織の目標が個人の目標へと伝播し、学校に大きな成果をもたらせる原動力となったとき、その個人を評価し相応の成果報酬を与えるなどの給与制度の導入が必要な状況にある。まずは来年度から導入予定の教員個人の目標達成と人事考課（業務評価・授業評価）について試行的、段階的に導入する。

(7)について、「理数重点化」、「SSH 指定」を受けて、高中振興基金を活用した実験室のリニューアルを行い、新たな教育環境の下で理数教育を推進できる。

2. 教育に関する運営目標

項目	目標	達成状況	評価
(1) 女子部・共学部の準備	制度改革・教育改革	短期間での準備ができた	A
(2) SSH の実施・活用	SSH の計画的実施	プログラムを計画通り実施 教員の理解を全体的なものへと広げていく必要がある	B
(3) 適正な授業計画管理	シラバスの確認と公表	シラバスの公表と遂行 シラバスの検証が必要	C
(4) 指導と評価の一体化への共通理解	成績認定基準の設定、認定の在り方の見直し	成績評価基準、欠点の措置等の基準と対応、成績認定の考え方を共有した	B
(5) 教育課程の整備	女子部・共学部およびコース改編により検討	改編はできて特に課題はない	A
(6) 新学力向上	探究・国際理解・情報教育の推進	教科「情報」への一応の対応はできた	B
(7) 大学合格目標値設定、進路実績の向上への取り組み	難関国立大学 30 名、関関同立大 100 名の合格者	目標の 6 割程度しか達成できなかった。阪大・神戸大の合格者の底上げが課題。	C
(8) 進路指導計画策定と実行	進路実績の向上、学年との情報共有	模試等の成績共有と状況把握はできた	B
(9) 進路説明会の実施	保護者への情報提供	保護者に丁寧に説明できた	B
(10) 部活動の適正な運用	学業との両立、働き方改革	週 2 日の活動休止、土日の活動に課題がある	C
(11) クラブの統廃合	クラブ数の削減	喫緊の課題で協議されたが、実行していく必要がある。	D
(12) クラブでの問題事案の減少	保護者や生徒からの問題事案の減少	大きなトラブルはなかったが顧問と保護者間の情報共有が必要である	B
(13) 特別指導の減少	指導案件の減少、指導の徹底	生徒間のトラブル、保護者の要望は多く、いじめによる案件も散見される。指導体制の確立、適応性が求められている。	C
(14) 校則・風紀・部則の検証	規則の適切性の検証と改正、廃止に向けた協議	共学化に伴う生活ルール、風紀等の整備が必要である。	C
(15) 生徒満足度の向上	アンケート評価の向上	昨年度よりも評価の下がった学年があり、転学者数と相関がある。分析が急務である。	C
(16) 保護者との良好な関係の構築	意見・要望等の減少、面談対応	保護者からの意見・要望が増えてきている。学習面談、受験指導等、質の向上も課題である。	C
(17) 学校行事の見直し	授業時数の確保、行事の意義の再認識	授業時数の確保が急務である。行事と一体的な改革が必要である。	C
(18) 教員研修の企画	教員の資質向上	学校評価結果の分析、男子生徒の受け入れに関する研修を実施した。	B
(19) 図書館利用者数	利用者数増加、ニーズの把握	新しい図書の充実が望まれる	C
(20) 探究活動の活性化	発表機会の設定、教員のファシリテート力の向上	SSH 事業の活用、他校との合同発表会等、計画通り実行できた。	A

S: 達成し成果が確認できた A: 達成できた B: 概ね達成できた C: 不十分 D: 未着手

3. 2024年度大学入試合格実績

大学名		合格者数
国立大学	奈良女子大	3
	神戸大	3
	鳥取大	1
	岡山大	1
	九州工大	1
	名古屋工大	1
	その他	1
国立大学計		11
公立大学	大阪公立大	1
	奈良県立大	1
	兵庫県立大	2
	神戸市外大	1
	兵庫県立芸術文化 観光専門職大学	1
公立大学計		6
国公立大学合計		17

短期大学	3
海外の大学	2
専門学校	9
就職(プロテニスプレーヤー)	1
進学準備	12
その他	27

大学名		合格者数
私立大学	神戸親和大	5
	慶應大	1
	中央大	1
	立教大	1
	早稲田大	1
	京都産業大	3
	京都女子大	17
	京都薬科大	3
	同志社	14
	同志社女子大	10
	立命館大	16
	龍谷大	6
	大阪医薬大	2
	大阪歯大	5
	関西大	18
	関西医大	1
	関西外大	7
	近畿大	23
	関西学院大	24
	甲南大	17
	甲南女子大	23
	神戸学院大	18
	神戸女学院大	37
	神戸薬大	3
	兵庫医科大	6
	京都外大	1
武庫川女子大	39	
その他	90	
私立大学合計		392

2025. 3. 31 現在判明分

【総括】

- (1) 国公立大の合格者は、17名（前年度35名、18名減少）、関関同立大の合格者73名（前年度118名、45名減少）であった。
- (2) 神戸大は3名、奈良女子大は3名の合格、医学部医学科は2名が合格した。
- (3) 理系の系統別では、医療系25名（看護6名、薬8名、医歯4名など）、工学系19名、農水産系1名。

4. 2024年度入試結果

【中学入試】

	志願者数				受験者数				合格者数						入学者数											
	女子部		共学部		女子部		共学部		女子部		共学部SS		共学部探究		女子部		共学部SS		共学部探究							
	SS	探究	SS	探究	SS	探究	SS	探究	SS	探究	男子	女子	男子	女子	SS	探究	男子	女子	男子	女子						
前期Ⅰ	20	8	35	22	19	6	35	22	15	7	7	15	6	22	25	18	17	44	11	42						
前期Ⅱ	探究入試	6	2	34	16	6	2	33	16	6	2	6	24	6							10					
	SS2教科	59		92		58		90		37		36	8	44							9	45				
後期Ⅰ	探究I教科		18		39		18		36																	
	SS3教科	30		111		29		109		22		12	20	53							8	49				
後期Ⅱ	探究2教科		10		47		9		47																	
	後期Ⅱ	57	12	91	43	55	11	85	41	35	24	2	43	8							60					
後期Ⅲ	22	7	58	24	16	3	23	11	9	7	9	9	5	4												
英語資格入試		2		12		2		11		2			1	10												
総合型入試				3				3						3												
帰国子女入試				1				1						1												
計	194	59	421	207	183	51	375	188	124	90	52	188	43	204							25	18	61	53		
	881				797				701						157											

【総括】

- (1) 志願者数は、881名（前年度762名、119名の増加）、受験者数は、797名（前年度722名、75名の増加）、合格者数は、701名（前年度628名、73名の増加）であった。
- (2) 入学者数は、157名（前年度107名、50名の増加）であった。

【高校入試】

		受験者数			合格者数			入学者数		
		アドバンスト	スポーツ・カルチャー	グローバル	アドバンスト	スポーツ・カルチャー	グローバル	アドバンスト	スポーツ・カルチャー	グローバル
1次	専願	9		1	8		1	12	11	1
	自己推薦		11			11				
	自己推薦B									
併願	13	1	6	13	1	6				
1.5次	専願	1			1					
	併願									
2次	専願									
帰国特別枠	専願									
合計		23	12	7	22	12	7	24		

※スポーツ・カルチャーコースには内部から2人、グローバルコースには内部から1人が加わる。

【総括】

受験者数は、42名（前年度38名、4名増加）合格者数は、1名（前年度38名、3名増加）入学者数は、24名（前年度19名、5名増加）であった。

【イベント動員状況】

	時期	回数	参加組数
外部会場説明会	4～10月	13	812
土曜見学会・説明会	4～12月	24	244
塾対象説明会	6, 9月	2	131
塾別説明会	8, 9, 11月	3	90
オープンスクール	7月	1	151
学校説明会	7, 9月	2	200
入試説明会	10月	2	201
男子説明会	10, 12月	3	13
受験説明会	11月	1	67
プレテスト解説会	11月	1	118
直前説明会	1月	2	52
個別出願相談会	1月	2	12

5. 2024年度国際交流事業報告

- 6月 海外大学進学説明会
- 6月 高校1年生 豪州姉妹校 マックロバートソン女子高校 ホームステイ受け入れ (24名) 14日間
- 6月 中国 温州市実験中学 研修団受け入れ (30名) 1日間
- 8月 異文化探究研修 (韓国) 4日間
- 1月 中国長春外国語学校 研修団受け入れ (21名) 1日間
- 1月 中国東北師範大学附属中高 研修団受け入れ (29名) 2日間
- 3月 中学3年生 ニュージーランド研修ホームステイ研修 (39名) 13日間
- 中学3年生 アメリカ サイエンス研修 (14名) 9日間
- 中学3年生 英語キャンプ (6名) 3日間

6. 2024年度部活動戦績報告

器楽部		第68回親善音楽会 第48回全国高等学校総合文化祭 清流の国ぎふ総文2024 第51回兵庫県交響楽祭 第48回兵庫県高等学校総合文化祭器楽・管弦楽部門演奏会 第23回器楽部定期演奏会 第10回バレンタイン・オーケストラ・コンサート	出演 優秀賞 出演 優秀賞 開催出演
ギター部		平成6年度全国高等学校ギター・マンドリン音楽コンクール出場 第48回 兵庫県高等学校総合文化祭 (第31回 器楽・管弦楽部門演奏会)	奨励賞 優良賞
コーラス部	高校	朝日合唱コンクール兵庫県大会 朝日合唱コンクール関西大会 兵庫ヴォーカルアンサンブルコンテスト2025	金賞 銀賞 金賞
	中学	NHK全国音楽コンクール兵庫県大会 朝日合唱コンクール兵庫県大会 朝日合唱コンクール関西大会 兵庫ヴォーカルアンサンブルコンテスト2025	銅賞 金賞 銀賞 銀賞
書道部		第48回全国高等学校総合文化祭書道部門 第48回兵庫県高等学校総合文化祭書道部門	特別賞 全国総文 推薦賞

		第 57 回兵庫県私学総連合会私学の書展 第 25 回宇野雪村賞全国書道展	墨運堂賞 呉竹賞 書遊賞 新温泉町 長賞 兵庫県書作家協会賞
美術部		第 4 回アート・ティーン公募展	入選
	中学	第 97 回兵庫県小・中・高校絵画展	入選
生物部	高校	神戸大学主催「高校生私の科学研究発表会」 総合文化祭自然科学部門発表会	奨励賞 出場
文学部		第 48 回兵庫県総合 文化祭 文芸誌部門 表紙絵部門 詩部門 短歌部門 俳句部門	優秀賞 最優秀賞 1 名 入選 1 名 入選 1 名 優良賞 1 名 入選 2 名
放送部	高校	NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会予選 アナウンス部門 朗読部門 NHK 杯全国高校放送コンテスト兵庫県大会決勝 アナウンス部門 兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門予選 アナウンス部門 朗読部門 兵庫県高等学校総合文化祭放送文化部門決勝 朗読部門 近畿高等学校総合文化祭福井大会 朗読部門	佳作 3 名 入選 1 名 佳作 2 名 優良賞 1 名 佳作 1 名 入選 1 名 奨励賞 1 名 奨励賞 1 名
理化部		全国高等学校総合文化祭	出場
ソフトボール部	高校	神戸市春季大会 兵庫県高等学校総合体育大会 神戸市秋季練成大会 神戸市秋季大会 兵庫県新人大会	出場 出場 出場 出場 出場
	中学	神戸市中学校選手権大会 神戸市中学総合体育大会 近畿私学大会 神戸市新人大会 兵庫県支部対抗神戸予選	出場 出場 出場 出場 出場
卓球部	高校	第 66 回兵庫県高等学校新人卓球大会 女子学校対抗 第 36 回近畿高等学校新人卓球大会 女子学校対抗	5 位 出場
	中学	令和 6 年度神戸市中学校総合体育大会卓球競技の部女子団体 令和 6 年度兵庫県中学校総合体育大会卓球競技の部女子団体	6 位 出場
空手道部	中学・ 高校	春季級審査会	受験

		春季段審査会 夏季級審査会 夏季段審査会 冬季級審査会 冬季段審査会	受験 受験 受験 受験 受験
	高校	神戸市高等学校春季空手道大会 兵庫県高等学校空手道大会 神戸市高等学校秋季空手道大会 兵庫県高等学校空手道新人大会	出場 出場 出場 出場
ダンス部		第51回 六甲ファミリーまつり Dance AllStar 2024 in kobe 湊川神社夏まつり 六甲アイランドハロウィンフェスティバル2024 第67回兵庫県学校ダンス研究発表会 第48回兵庫県高等学校総合文化祭文化部合同発表会 第14回鉄人ダンスフェスティバル	出演 出演 出演 出演 出演 出演 出演
バスケットボール部	高校	神戸市民大会 兵庫県高等学校総合体育大会 全国高等学校バスケットボール選手権大会 神戸・淡路地区上位トーナメント 兵庫県高等学校新人選抜優勝大会 神戸・淡路地区新人大会	出場 ベスト16 ベスト16 6位 出場 8位
	中学	神戸市新人戦 神戸市中学校総合体育大会 神戸市市民大会	出場 出場 出場
バドミントン部	高校	兵庫県高等学校総合体育大会 団体・シングルス ダブルス 全国高等学校総合体育大会 シングルス JOC全日本ジュニアオリンピック シングルス 兵庫県新人戦 シングルス 兵庫県新人戦 団体・ダブルス 近畿大会 シングルス	準優勝 3位 出場 出場 優勝 2位 3位
	中学	全国選抜近畿地区予選大会 シングルス・ダブルス 全国高等学校選抜大会 シングルス・ダブルス JOC兵庫県予選ジュニア新人の部 兵庫県新人戦 団体 兵庫県新人戦 シングルス 兵庫県新人戦 ダブルス JOCジュニアオリンピック シングルス 全国中学生バドミントン大会 団体・ダブルス	準優勝 出場 優勝 優勝 3位 出場 出場
バレーボール部	高校	春季リーグ戦 1部 兵庫県総合体育大会 近畿総合体育大会 兵庫県選手権大会兼全日本高等学校選手権大会兵庫県代表決定戦 秋季リーグ戦1部 近畿私立高等学校バレーボール大会 全国私立高等学校バレーボール大会 神戸市新人大会 兵庫県新人大会	2位 8位 16位 2位 1位 8位 16位 2位 2位

	中学	灘区総合体育大会	優勝
陸上競技部		県総合体育大会神戸地区予選会 県ユース神戸地区予選会 神戸市総合体育大会	出場 出場 出場
演劇部	高校	第 55 回神戸市高等学校演劇発表会	出演
テニス部	中学	神戸市中学校総合体育大会ソフトテニス競技 神戸市中学校ソフトテニス優勝大会 神戸市中学校ソフトテニス新人大会	出場 出場 出場
	高校	神戸市高等学校総合体育大会ソフトテニス 兵庫県私立高等学校ソフトテニス選手権大会 兵庫県民大会 神戸市高等学校ソフトテニス新人大会	出場 出場 出場 出場
ハンドボール部	高校	神戸市春季リーグ戦 兵庫県高校総合体育大会 兵庫県民大会 神戸市秋季リーグ戦 兵庫県高校新人大会	出場 出場 出場 出場 出場

西村佳世 (硬式テニス)	ITF (国際テニス連盟) 女子ワールドテニスツアー W15 富山 大東建託オープンテニス 2024 優勝 第 106 回全国高等学校野球選手権大会兵庫県大会開幕戦 始球式出場 マロニエ賞、神戸市スポーツ優秀賞
高倉真菜 (バトン トワリング)	第 21 回兵庫県バトントワリング選手権大会 ソロ U-18 4 位 トゥーバトン U-18 1 位 2024 JapanCup-日本選手権-高校生個人バトントワリング部門 3 位 第 33 回バトントワリング兵庫県大会 7 位

施設等の状況

1. 主な施設の取得・改修又は処分の状況

1) 主な施設の取得関係

◇ 神戸親和大学

- | | |
|--------------------------------|----------------|
| ① 大学 1 号館屋上防水改修工事 | (金額：44,440 千円) |
| ② 大学玉結寮屋上防水及び手摺取替改修工事 | (金額：28,600 千円) |
| ③ 大学 1 号館 2 階・3 階研究室男子トイレ改修工事 | (金額：19,910 千円) |
| ④ 大学 ICT ネットワーク増強計画 (第 2 期) 工事 | (金額：12,595 千円) |
| ⑤ 大学仮想化ホストサーバ更新一式 ※5 年リース | (金額：3,967 千円) |
| ⑥ 大学附属親和幼稚園築山人工芝敷設他園庭改修工事一式 | (金額：3,388 千円) |
| ⑦ 大学子育て支援ひろば「すくすく」床暖房敷設Ⅱ期工事 | (金額：2,668 千円) |
| ⑧ 大学玉結寮受電用高圧ケーブル他受電設備改修工事 | (金額：2,228 千円) |
| ⑨ 大学受電用高圧ケーブル他受電設備改修工事 | (金額：2,085 千円) |
| ⑩ 大学学生会館ラウンジテーブル・イス他更新一式 | (金額：2,000 千円) |
| ⑪ 大学 1 号館西事務室空調機更新改修工事 | (金額：1,925 千円) |
| ⑫ 大学附属親和幼稚園保育棟 1 階給湯設備他改修工事 | (金額：1,108 千円) |

◇ 親和女子高等学校・親和中学校

- | | |
|------------------------|----------------|
| ① 外壁改修（管理・特別教室棟、高校棟）工事 | (金額:153,003千円) |
| ② 高校棟内装及び共用内壁改修工事 | (金額:44,722千円) |
| ③ 高校・中学トイレ及び管理棟トイレ改修工事 | (金額:103,400千円) |
| ④ 理科実験室リニューアル工事 | (金額:53,460千円) |
| ⑤ グラウンド人工芝改修工事 | (金額:99,990千円) |
| ⑥ 高校棟プロジェクタ更新工事 | (金額:8,206千円) |
| ⑦ 非常放送設備更新工事 | (金額:6,600千円) |
| ⑧ 高圧遮断器関係更新工事 | (金額:1,906千円) |
| ⑨ クラブ送迎用マイクロバス購入 | (金額:6,250千円) |

2) 主な施設の処分関係

◇ 神戸親和大学

- | | |
|--|-------------|
| ① 大学1号館屋上防水改修工事に伴う除却処分 ※全部除却 | |
| ・資産番号17622003-000 1号館東ピロティ防水 除却(建物) | 取得額:2,000千円 |
| ② 大学1号館西事務室空調機更新改修工事に伴う除却処分 ※全部除却 | |
| ・資産番号19522009-000 1号館事務室冷暖房工事 除却(建物) | 取得額:5,930千円 |
| ・資産番号19522010-000 1号館事務室冷暖房設備工事 除却(建物) | 取得額:2,310千円 |
| ③ 子育て支援ひろば床暖房敷設Ⅱ期工事(2024年度)に伴う除却処分 ※一部除却 | |
| ・資産番号20723001-000 子育て支援センターのうち一部除却(建物) | 取得額:1,102千円 |

◇ 親和女子高等学校・親和中学校

- | | |
|--|----------------|
| ① 高中「非常放送設備更新」に伴う除却処分 ※一部除却 | |
| ・資産番号18832002-000 の内鉄筋コンクリート造(一部除却)建物:電気設備 | 取得額:2,058千円 |
| ② 高中「高圧受変電設備更新」に伴う除却処分 ※一部除却 | |
| ・資産番号18832002-000 の内鉄筋コンクリート造(一部除却)建物:電気設備 | 取得額:1,376千円 |
| ③ 高中「トイレ改修工事」に伴う除却処分 ※全部及び一部除却 | |
| ・資産番号18832001-000 の内鉄筋コンクリート造(一部除却)建物 | 取得額:1,093.73千円 |
| ・資産番号19632014-000 の鉄筋コンクリート造(全部除却)建物 | 取得額:1,236千円 |
| ・資産番号20732002-000 の給排水衛生設備(全部除却)建物:衛生 | 取得額:25,143.3千円 |
| ・資産番号21832001-000 の冷暖房設備(全部除却)建物:冷暖房 | 取得額:689.85千円 |
| ・資産番号21832002-000 の冷暖房設備(全部除却)建物:冷暖房 | 取得額:695.1千円 |
| ・資産番号21832003-000 の冷暖房設備(全部除却)建物:冷暖 | 取得額:715.05千円 |
| ・資産番号21832004-000 の電気設備(全部除却)建物:電気設備 | 取得額:472.5千円 |
| ・資産番号21230012-000 の内給排水衛生設備(一部除却)建物:衛生 | 取得額:205.17千円 |
| ・資産番号21430005-000 の給排水衛生設備(全部除却)建物:衛生 | 取得額:10,260千円 |
| ・資産番号19632008-000 の内給排水衛生設備(一部除却)建物:衛生 | 取得額:255.44千円 |
| ④ 高中「外部トイレ改修工事」に伴う除却処分 ※一部除却 | |
| ・資産番号18832001-000 の内鉄筋コンクリート造(一部除却)建物 | 取得額:511千円 |
| ・資産番号18832003-000 の内給排水衛生設備(一部除却)建物:衛生 | 取得額:231千円 |
| ⑤ 高中「教室カーテン取替工事」に伴う除却処分 ※一部除却 | |
| ・資産番号19632001-000 の内鉄筋コンクリート造(一部除却)建物 | 取得額:1,370.93千円 |